

4. 投資信託保有状況(現在保有層)

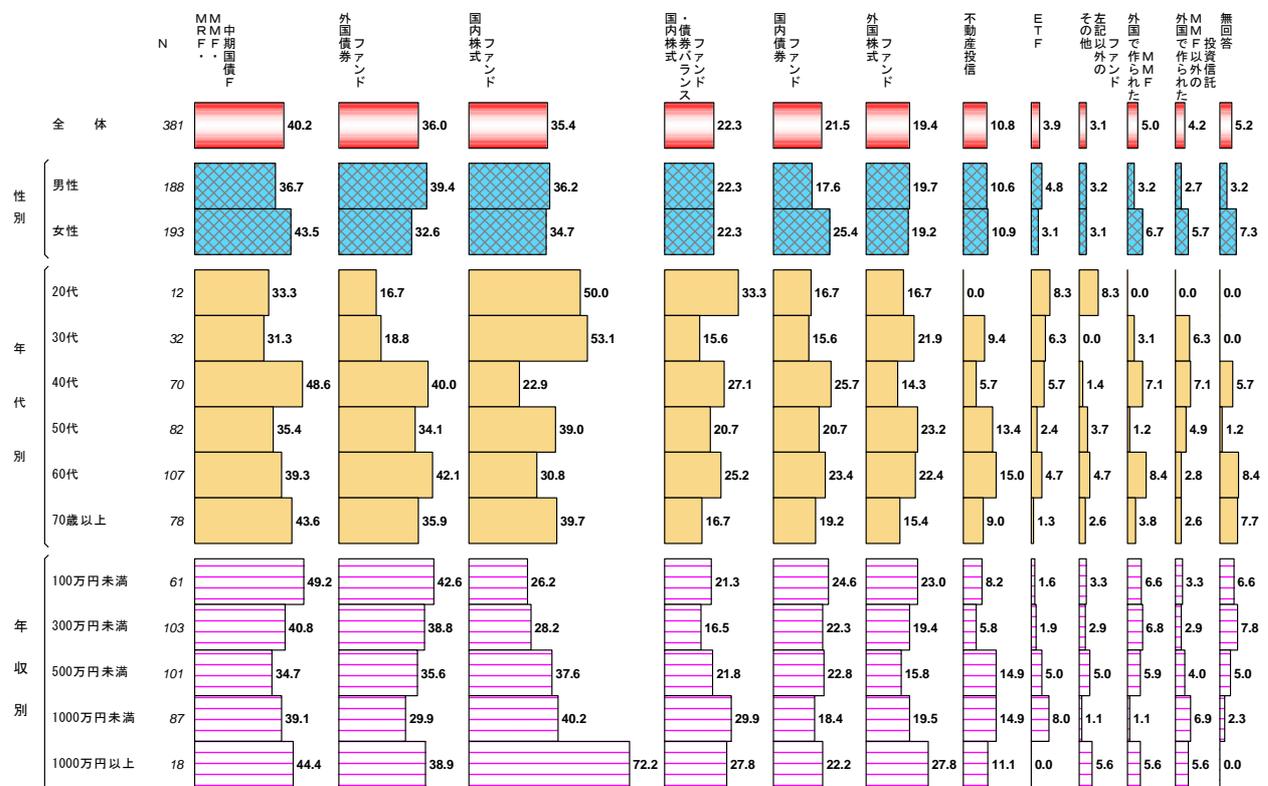
(1) 投資信託の保有種類

現在保有層における投資信託保有種類をみると、「MR F・MMFまたは中期国債ファンド」が40.2%で最も高い。以下、「外国債券ファンド」が36.0%、「国内債券ファンド」が35.4%で続いている。

なお、投資信託保有種類数(重複回答分)を回答サンプルで除して求めた平均保有数は、2.13種類となっている。

【投資信託の保有種類(重複回答)／基本軸1－現在保有層】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



【投資信託の保有種類(重複回答)・種類別回答者数と平均保有数－現在保有層】

※無回答は除く。

	(N)											
全体	MR FまたはMMF	中期国債 F	外国債券 F	国内株式 F	国内債券 F	外国債券 F	不動産投信	E T F	その他(左記以外)	外国で作られたMMF	MMF以外の投資信託	平均保有数(種類)
361	153	137	135	85	82	74	41	15	12	19	16	2.13

(2) 投資信託の投資額

現在保有層における投資信託の保有種類別平均投資額をみると、「外国債券ファンド」の376万円、「不動産投信」の309万円、「国内株式・債券バランスファンド」の304万円などが高い順となっている。

【投資信託の投資額(単数回答)－現在保有層】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

	(%)						平均(万円投資額)	N
	100万円未満	300万円未満	500万円未満	1000万円未満	1000万円以上	投資額不明		
MRF・MMFまたは中期国債ファンド	64.1	21.6	6.5	3.9	3.3	0.7	181	153
国内債券ファンド	31.7	36.6	18.3	6.1	3.7	3.7	273	82
外国債券ファンド	21.9	40.9	15.3	10.9	8.8	2.2	376	137
国内株式・債券バランスファンド	34.1	34.1	14.1	11.8	4.7	1.2	304	85
国内株式ファンド	37.8	34.8	14.1	6.7	4.4	2.2	267	135
外国株式ファンド	29.7	40.5	14.9	5.4	5.4	4.1	289	74
ETF	46.7	26.7	20.0	6.7	0.0	0.0	207	15
不動産投信	39.0	26.8	12.2	7.3	7.3	7.3	309	41
その他(上記以外)	33.3	41.7	16.7	0.0	8.3	0.0	292	12
外国で作られたMMF	57.9	31.6	0.0	5.3	0.0	5.3	139	19
外国MMF以外の投信	12.5	43.8	25.0	18.8	0.0	0.0	334	16



上記投資信託保有者(投資額不明除く)の平均合計投資額(推計)

546万円

5. 投資信託購入状況(現在保有層・保有経験層)

(1) 投資信託購入のきっかけ

投資信託を購入したきっかけは、「証券会社や銀行等の人から勧められて」が67.8%で最も高く、他のきっかけを大きく上回っている。以下、「商品広告等を見て良さそうだったので」(17.1%)、「家族・友人から良いという話を聞いて」(16.2%)、「新聞や雑誌記事等で良さそうだったので」(15.0%)、「電話案内やDMが送られてきたので」(13.5%)が10%台で続いている。

性別では、男性の方が高いのは「新聞や雑誌記事等で良さそうだったので」(17.4%)、女性の方が高いのは「証券会社や銀行等の人から勧められて」(72.3%)「家族・友人から良いという話を聞いて」(19.2%)となっている。

年代別でみると、「証券会社や銀行等の人から勧められて」は年代が上がるにつれて高くなり、「商品広告等を見て良さそうだったので」「投資信託を解説した本を読んで」「インターネットで良さそうだった」と思った」では、年代が低いほど高くなる傾向がみられる。

年収別では、「証券会社や銀行等の人から勧められて」は年収が低い層ほど、「新聞や雑誌記事等で良さそうだったので」は年収が高い層ほど高くなる傾向がある。

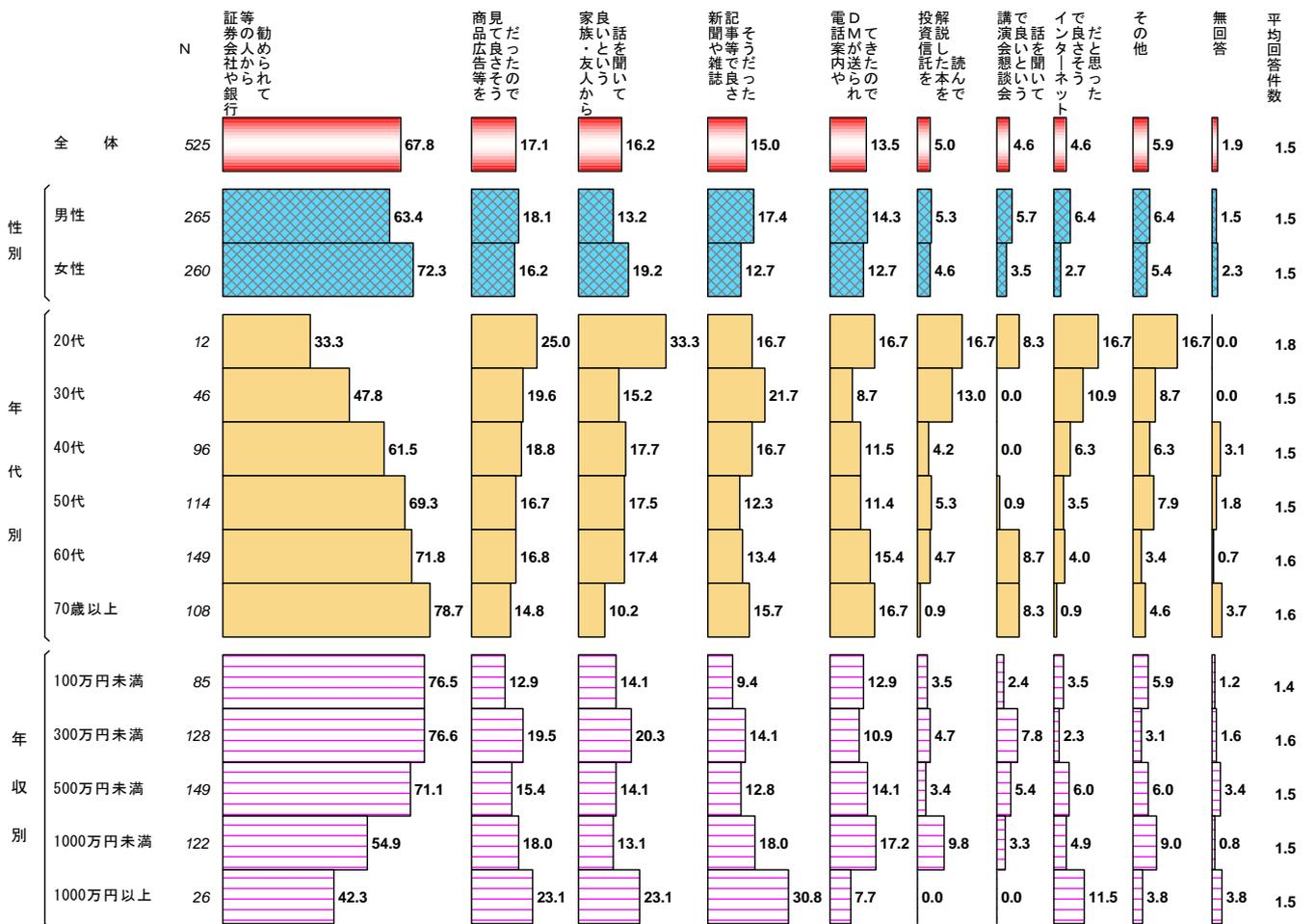
保有状況別では、「証券会社や銀行等の人から勧められて」は現在保有層で73.2%と保有経験層(53.5%)を大きく上回っている。「家族・友人から良いという話を聞いて」「新聞や雑誌記事等で良さそうだったので」は、現在保有層の方が低くなっている。

保有種類別では、「証券会社や銀行等の人から勧められて」が債券ファンド保有層で82.7%、MR F・MMF・中期国債ファンド保有層で76.2%と高く、「家族・友人から良いという話を聞いて」はMR F・MMF・中期国債ファンド保有層で21.4%、「電話案内・DMが送られてきたので」は債券ファンド保有層で21.0%と高い。

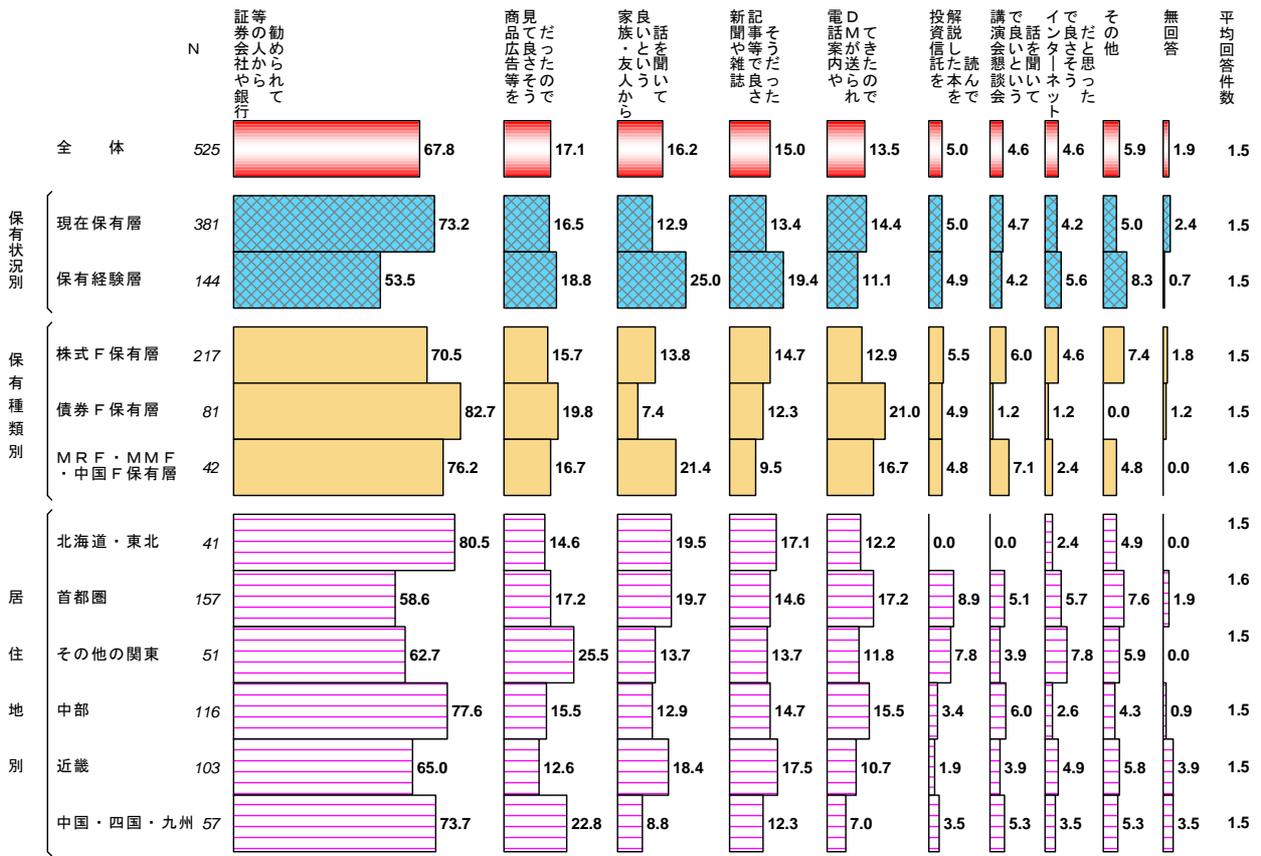
居住地別では、北海道・東北、中部、中国・四国・九州で「証券会社や銀行等の人から勧められて」が70%以上と高く、その他の関東と中国・四国・九州で「商品広告等を見て良さそうだったので」が20%以上と高い。

【投資信託購入のきっかけ／基本軸1（重複回答）－現在保有層・保有経験層】

※N数（サンプル数）が少ない項目については、データをみる際に注意が必要。



【投資信託購入のきっかけ／基本軸2（重複回答）－現在保有層・保有経験層】



(2) 投資信託の購入金融機関

購入の際の金融機関は、「証券会社」が66.1%を占めている。次いで「銀行等の金融機関」が40.0%となっている。

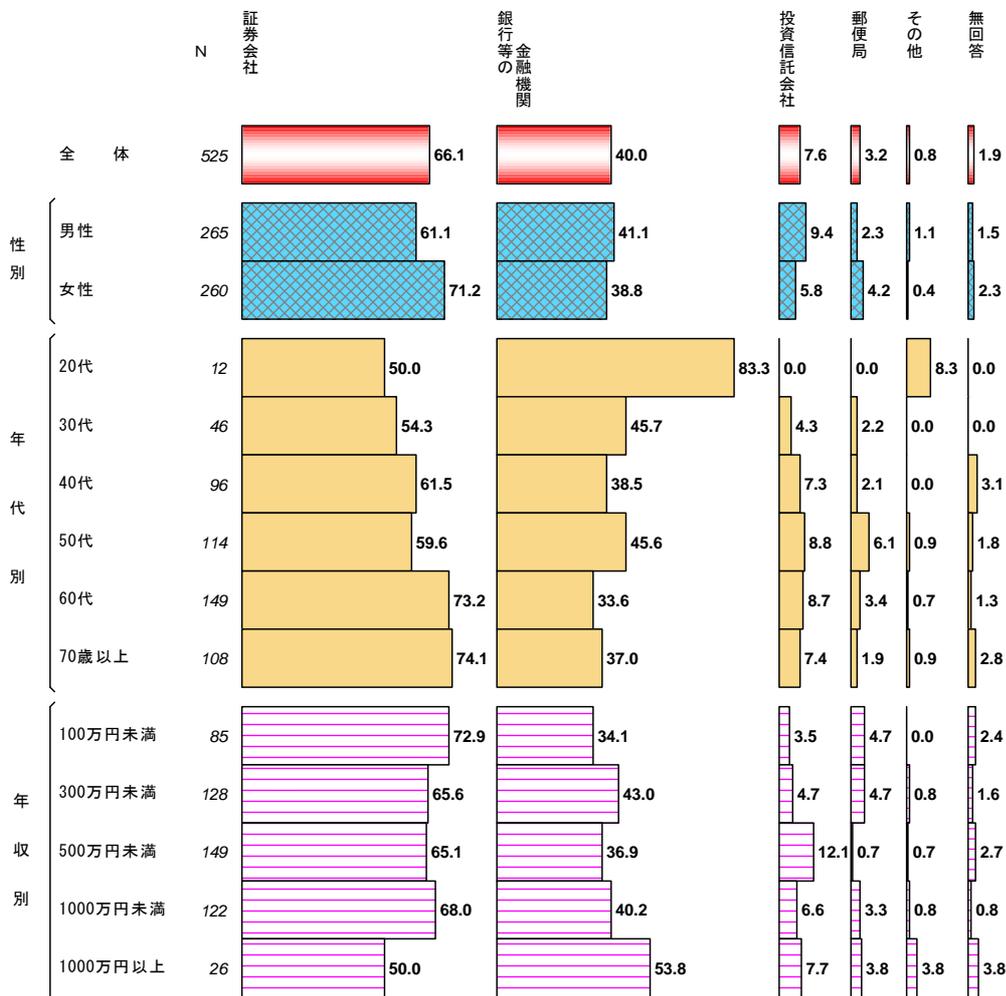
性別でみると、女性の方が男性よりも「証券会社」が高い。

投資信託保有状況別でみると、現在保有層では「証券会社」が62.7%と最も高いものの、保有経験層との差は10%程度となっている。一方、「銀行等の金融機関」は、現在保有層が48.3%、保有経験層が18.1%と両者の差が大きいことが目立つ。

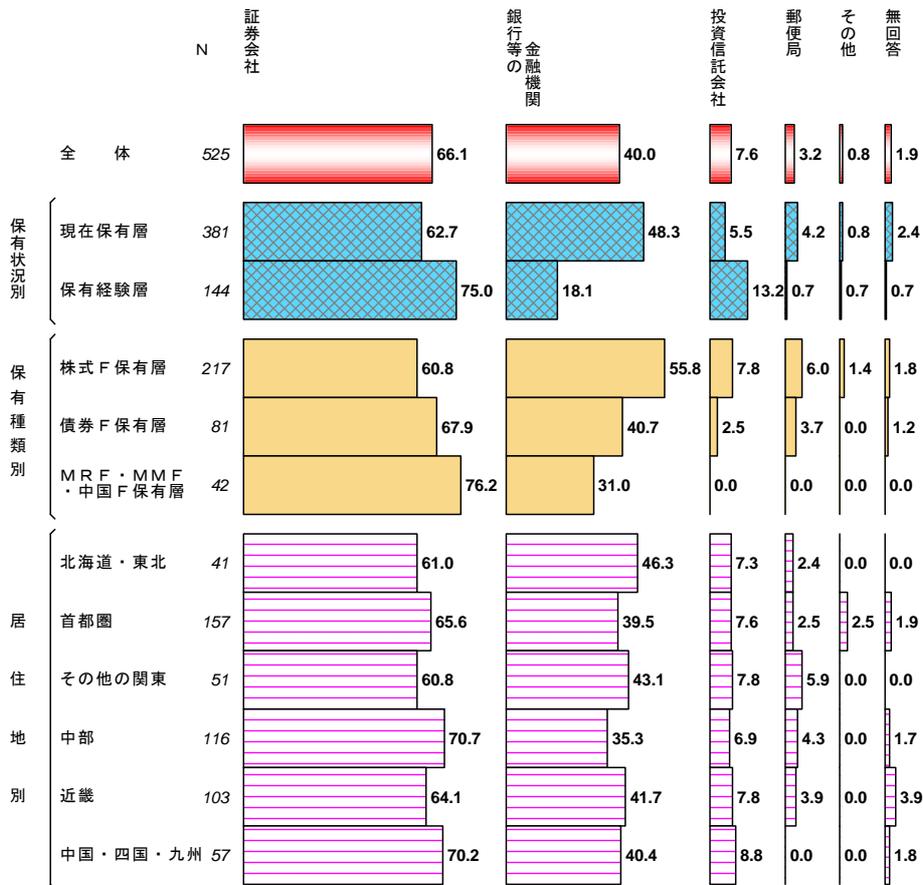
投資信託保有種類別でみると、株式ファンド保有層、債券ファンド保有層では「銀行等の金融機関」が、MRF・MMF・中期国債ファンド保有層では「証券会社」が高い。

【投資信託の購入金融機関／基本軸1（重複回答）－現在保有層・保有経験層】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



【投資信託の購入金融機関／基本軸2（重複回答）－現在保有層・保有経験層】



(3) 販売員の説明・勧誘方法

① 販売員の説明・勧誘方法への満足状況

投資信託を購入した際の販売員の説明・勧誘方法に対する満足状況は、「とても満足した」(5.3%)、「まあ満足した」(48.0%)を合わせた“満足層”は53.3%、「あまり満足しなかった」(5.1%)と「まったく満足しなかった」(1.1%)を合わせた“不満層”は6.2%となっている。「とても満足した」から「まったく満足しなかった」まで、5点から1点の得点を与えて平均値を算出したところ、3.5点となった。

性別でみると、男性では“満足層”が女性よりも高く、女性は「どちらともいえない」が男性よりも高い。

年代別でみると、40代では“満足層”が他の年代に比べて低い。また、70歳以上では「とても満足した」が11.1%と他の年代に比べて高い。

年収別でみると、500万円未満で“満足層”が60%程度であるが、それ以外の層では顕著な差はみられない。

投資信託保有状況別でみると、現在保有層では保有経験層に比べて“満足層”が高い。

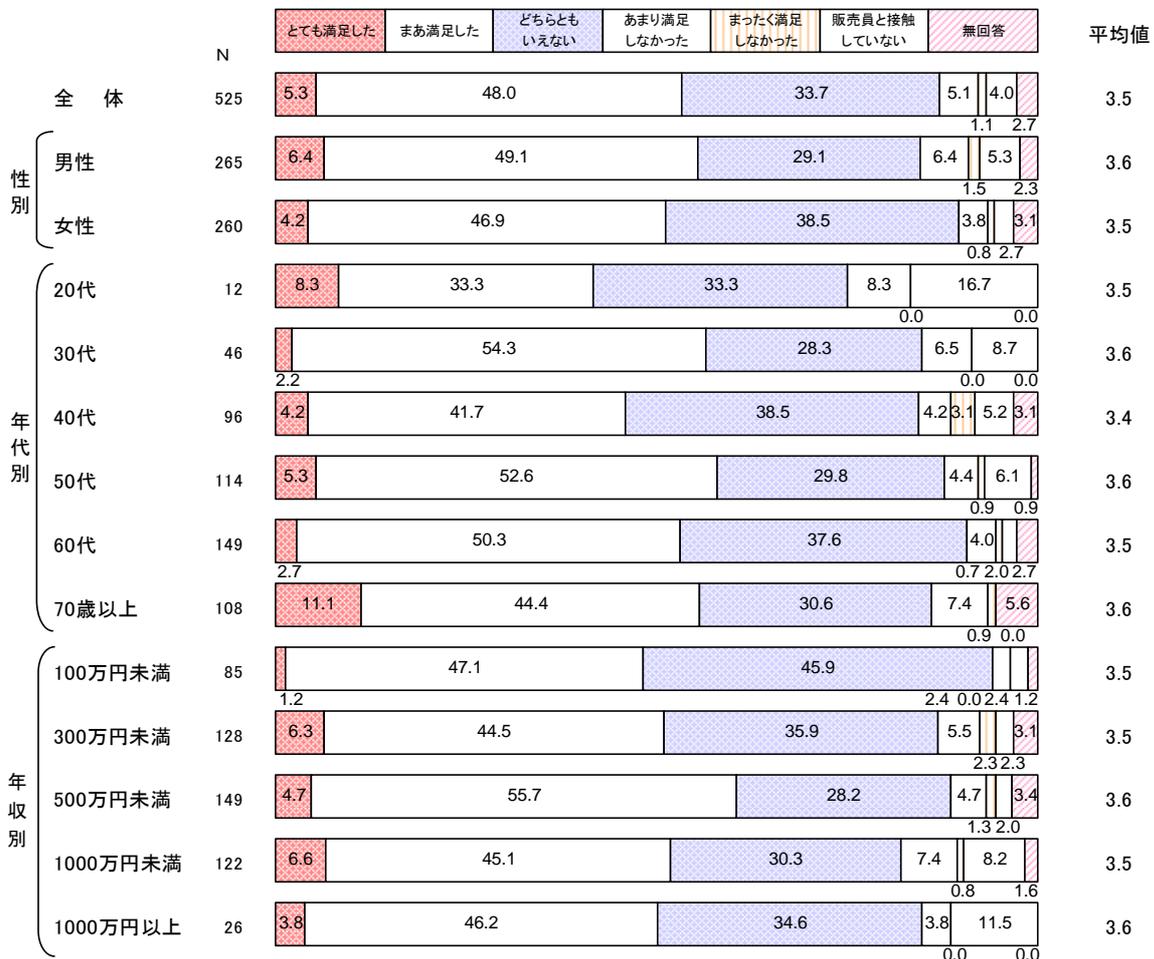
投資信託保有種類別では、高い順に株式ファンド保有層、債券ファンド保有層、MR F・MMF・中期国債ファンド保有層となっている。

居住地別でみると、首都圏、その他の関東、中部、近畿では“満足層”が低い。

【販売員の説明・勧誘に対する満足状況／基本軸1(単数回答)

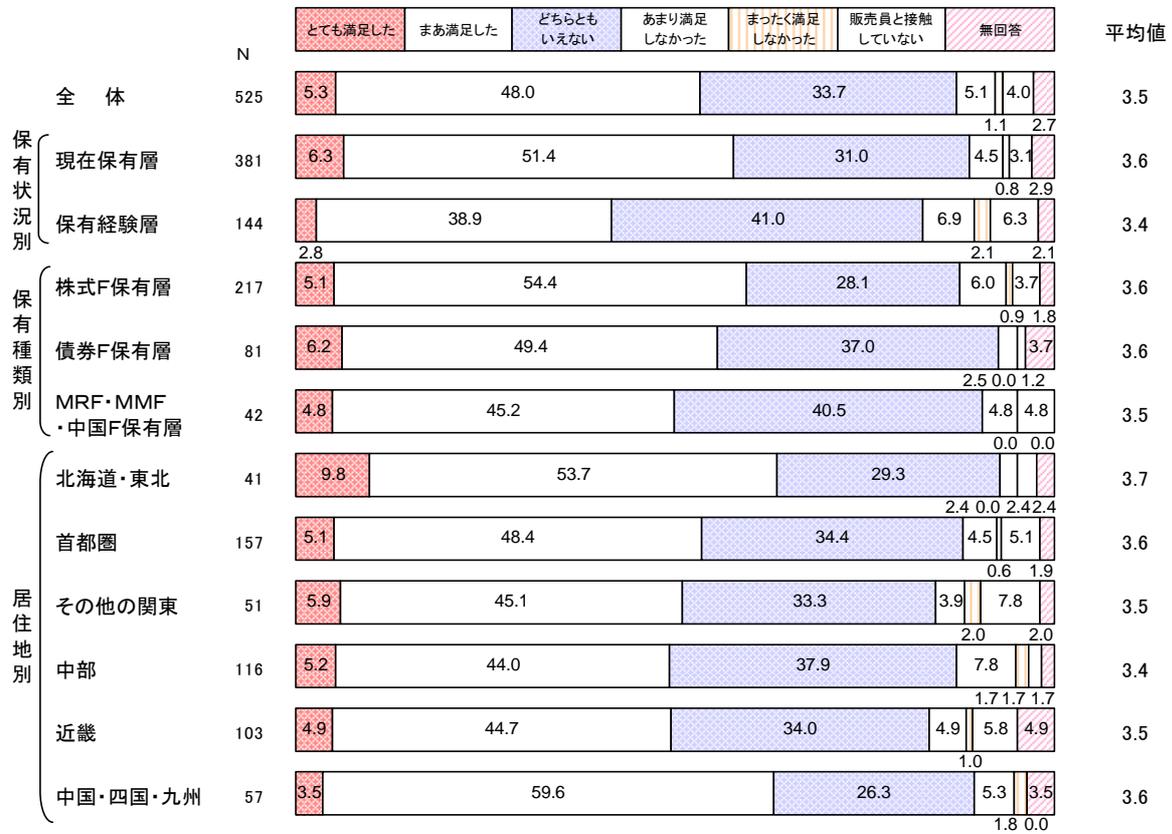
— 現在保有層・保有経験層】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



【販売員の説明・勧誘に対する満足状況／基本軸2（単数回答）

－現在保有層・保有経験層】



② 販売員の説明・勧誘方法への満足理由(説明・勧誘方法満足者)

販売員の説明・勧誘方法満足者に満足した理由を尋ねたところ、「商品のリスクもきちんと説明した」が最も高く、56.8%となっている。次いで、「商品の魅力をわかりやすく説明した」(46.8%)、「質問にきちんと答えてくれた」(27.5%)が続いている。

性別でみると、男性では「商品のリスクもきちんと説明した」(60.5%)が女性よりも高く、逆に「自分のニーズにあった商品を勧めた」(31.6%)は女性の方が高い。

年代別でみると、60代で「商品のリスクもきちんと説明した」が高いが、「商品の魅力をわかりやすく説明した」が他の年代に比べて低い。

年収別でみると、500万円未満と1000万円未満の層で「商品のリスクもきちんと説明した」が高く、「自分のニーズにあった商品を勧めた」は年収が低いほど高くなっている。

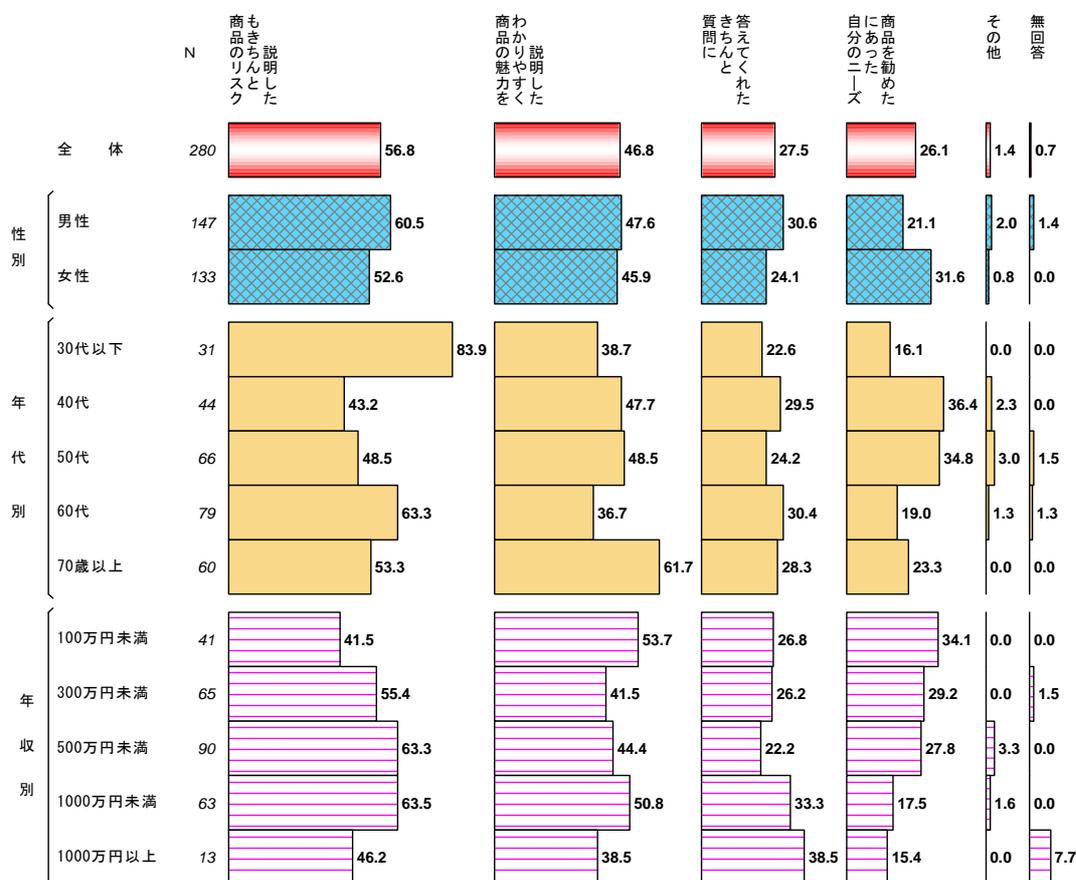
投資信託保有状況別でみると、現在保有層で「商品の魅力をわかりやすく説明した」が保有経験層よりやや低いものの、特に大きな差はみられない。

投資信託保有種類別でみると、株式ファンド保有層では「商品のリスクもきちんと説明した」が他層に比べて高く、債券ファンド保有層では「商品の魅力をわかりやすく説明した」が高くなっている。

【販売員の説明・勧誘への満足理由／基本軸1(重複回答)

－現在保有層・保有経験層のうち説明・勧誘方法満足者

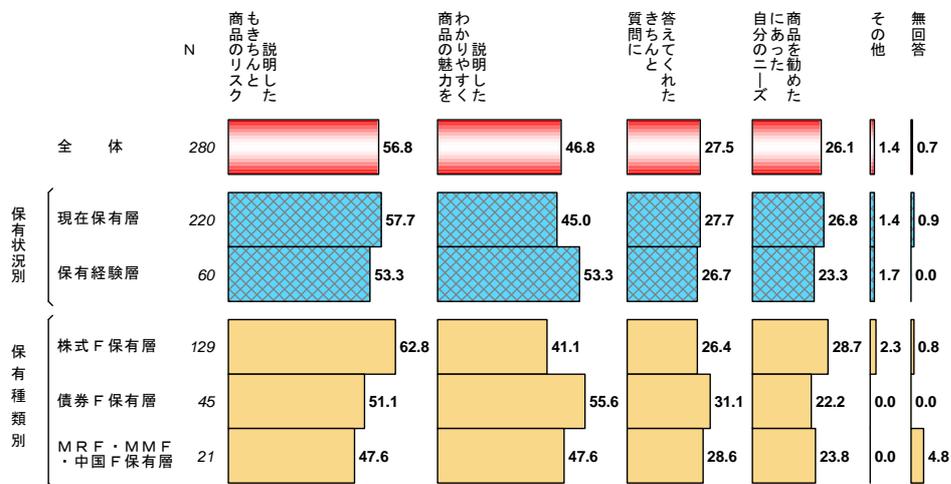
※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



【販売員の説明・勧誘への満足理由／基本軸2（重複回答）

－現在保有層・保有経験層のうち説明・勧誘方法満足者】

※N数（サンプル数）が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

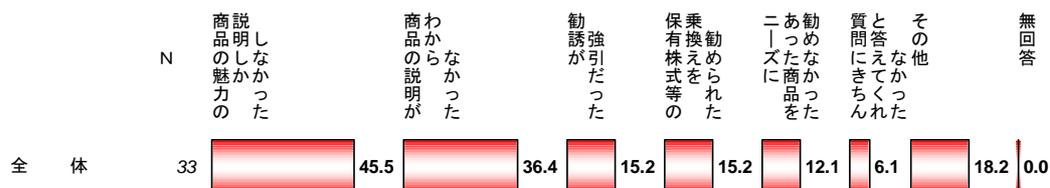


③ 販売員の説明・勧誘方法への不満理由(説明・勧誘方法不満者)

販売員の説明・勧誘方法不満者に、満足しなかった理由を尋ねたところ、「商品の魅力の説明しかなかった」が最も高く、45.5%となっている。次いで、「商品の説明がわからなかった」(36.4%)となっている。

【販売員の説明・勧誘への不満理由(重複回答)

—現在保有層・保有経験層のうち説明・勧誘方法不満者】



(4) 投資信託購入の決め手

投資信託を購入する決め手となったのは、「値上がり期待」が39.0%で最も高い。次いで、「安全性の高さ」(38.5%)、「過去の運用実績」(35.8%)、「分配の頻度・実績」(31.4%)が続いている。

性別でみると、男性では「値上がり期待」(43.8%)と「過去の運用実績」(40.8%)が女性よりも高い。

年代別でみると、50代で「安全性の高さ」(51.8%)が高く、「過去の運用実績」(22.8%)が低い。また、60代では「分配の頻度・実績」(38.9%)が高い。

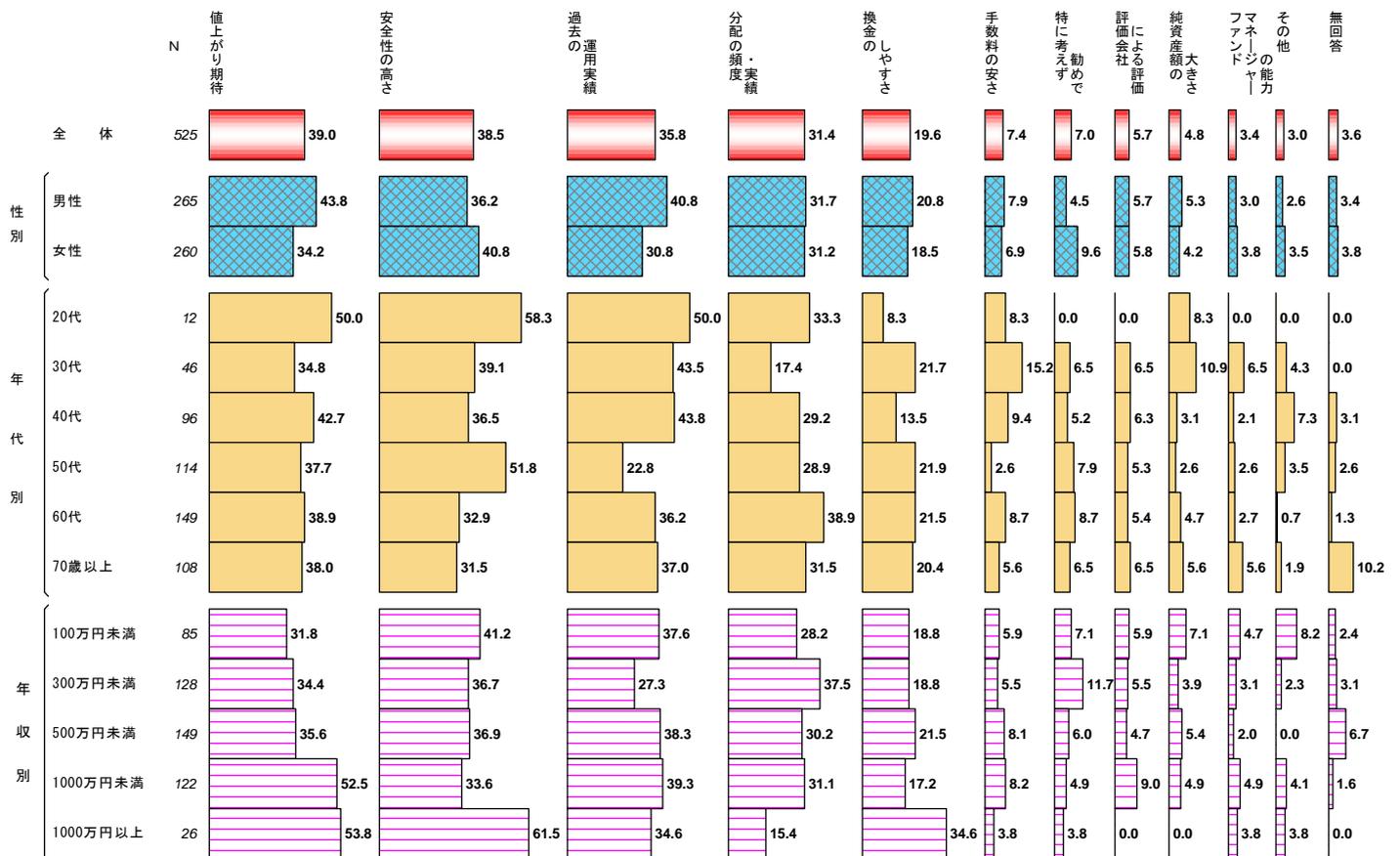
年収別でみると、「値上がり期待」は年収の高い層で高くなっている。

投資信託保有状況別でみると、現在保有層では、「分配の頻度・実績」が保有経験層よりも目立って高い。

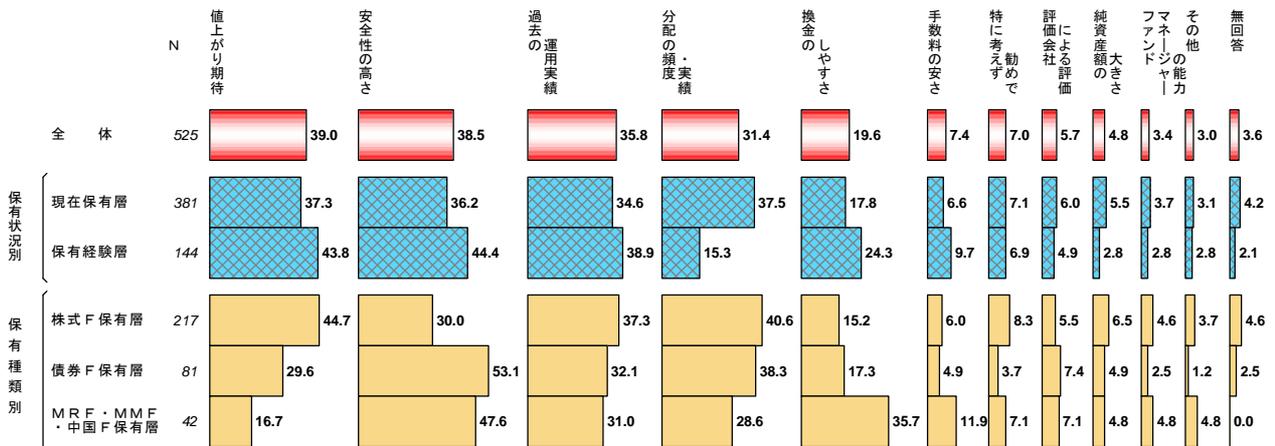
投資信託保有種類別でみると、株式ファンド保有層では「値上がり期待」が、MR F・MMF・中期国債ファンド保有層では「換金のしやすさ」が35.7%と他の層より高いが目立つ。また、債券ファンド保有層とMR F・MMF・中期国債ファンド保有層では、「安全性の高さ」(47.6%)が株式ファンド保有層よりも高くなっている。

【投資信託購入の決め手／基本軸1(重複回答)－現在保有層・保有経験層】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



【投資信託購入の決め手／基本軸2（重複回答）－現在保有層・保有経験層】



【参考：平成15年調査結果】

※平成18年調査から調査対象・方法を変更しているが、上記の質問については、
 選択肢を変更している点に注意が必要。

(N=898)

利回りの良さ	50.7
安全性の高さ	35.9
値上がり期待	34.6
換金のしやすさ	19.2
手数料の安さ	5.1
なじみやすさ	3.6
その他	2.4
特に考えず勧めで	10.2

(5) 投資信託の購入資金

投資信託の購入資金は、「定期性の預貯金等から」が44.0%で最も高く、「月々の収入から」が28.0%で続いている。

性別では、女性が「生保・損保の満期・解約金から」が男性に比べてわずかに高いものの、顕著な差はみられない。

年代別では、年代が低いほど「月々の収入から」が高くなっているのが目立つ。また、60代と70歳以上では「退職金・相続などの臨時収入から」が24.8%、26.9%、「株式・債券等を売ったお金」が22.1%、26.9%、30～50代では「ボーナスから」が20%前後から30%程度と他層に比べて高くなっている。

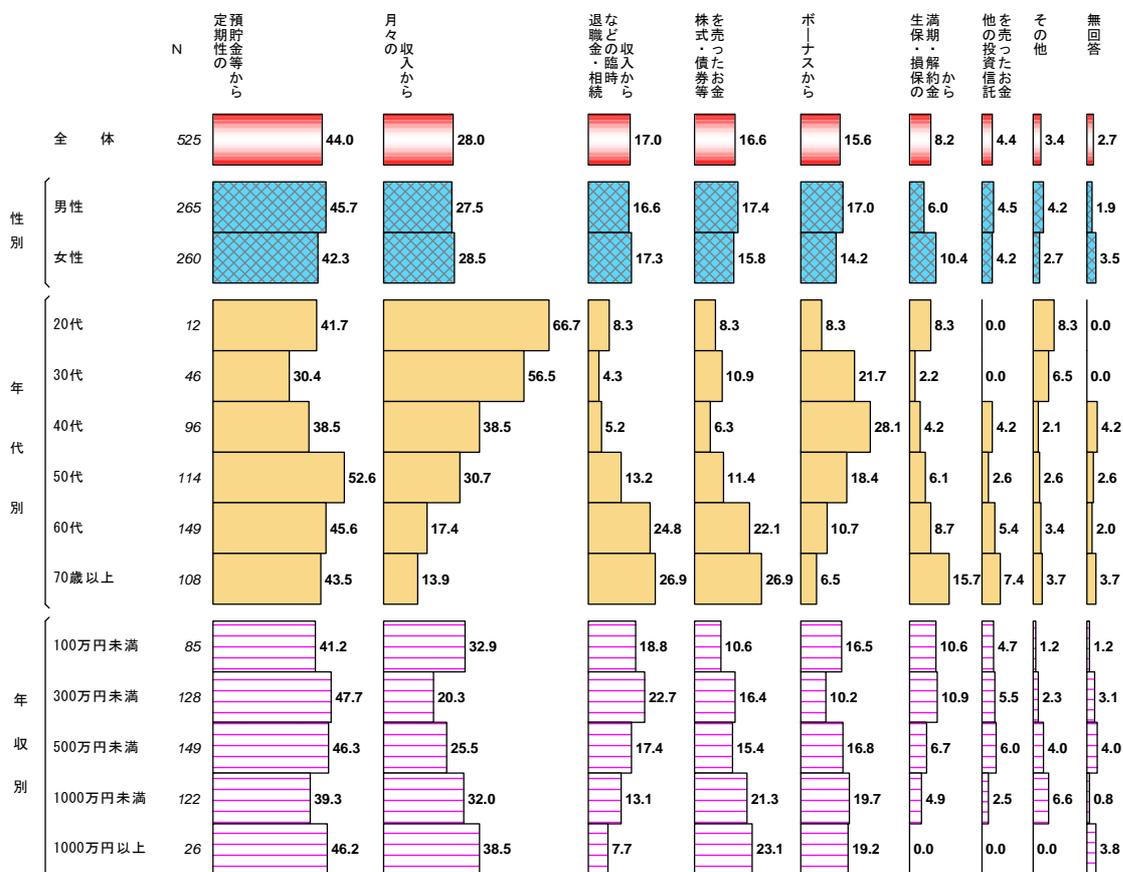
年収別では、300万円未満と500万円未満で「定期性の預貯金等から」が他層に比べて高く、「月々の収入から」が低い傾向がみられる。

投資信託保有状況別でみると、現在保有層では、「定期性の預貯金等から」「退職金・相続などの臨時収入から」「生保・損保の満期・解約金から」が保有経験層より高く、「月々の収入から」「ボーナスから」は保有経験層より低い。

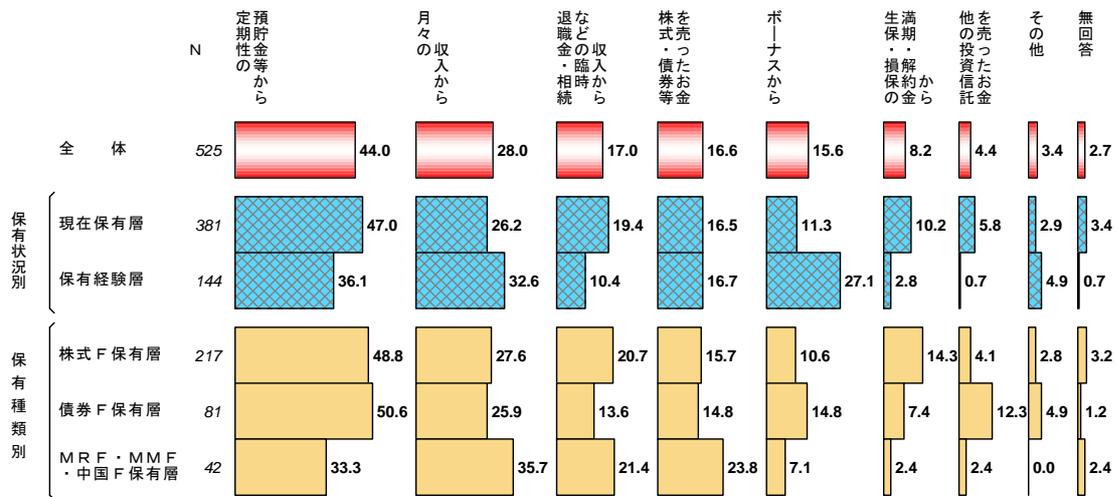
投資信託保有種類別でみると、株式ファンド保有層と債券ファンド保有層では、「定期性の預貯金等から」がMR F・MMF・中期国債ファンド保有層より高い。

【投資信託の購入資金／基本軸1（重複回答）－現在保有層・保有経験層】

※N数（サンプル数）が少ない項目については、データをみる際に注意が必要。



【投資信託の購入資金／基本軸2（重複回答）－現在保有層・保有経験層】



(6) 投資信託の購入目的

投資信託を購入した目的は、「老後の生活資金」が37.5%で最も高い。次いで、「資産のリスク分散」(29.3%)となっている。一方、「特に目的はないが資金を増やしたいため」が26.7%となっている。

性別でみると、男性では「老後の生活資金」「資産のリスク分散」が女性よりも高く、女性では「特に目的はないが資金を増やしたいため」が男性に比べて高い。

年代別でみると、「老後の生活資金」は年代が上がるにつれて高くなり、「経済の勉強のため」は30代で30.4%と高い。「特に目的はないが資金を増やしたいため」は、40代から年代が上がるにつれて低下している。

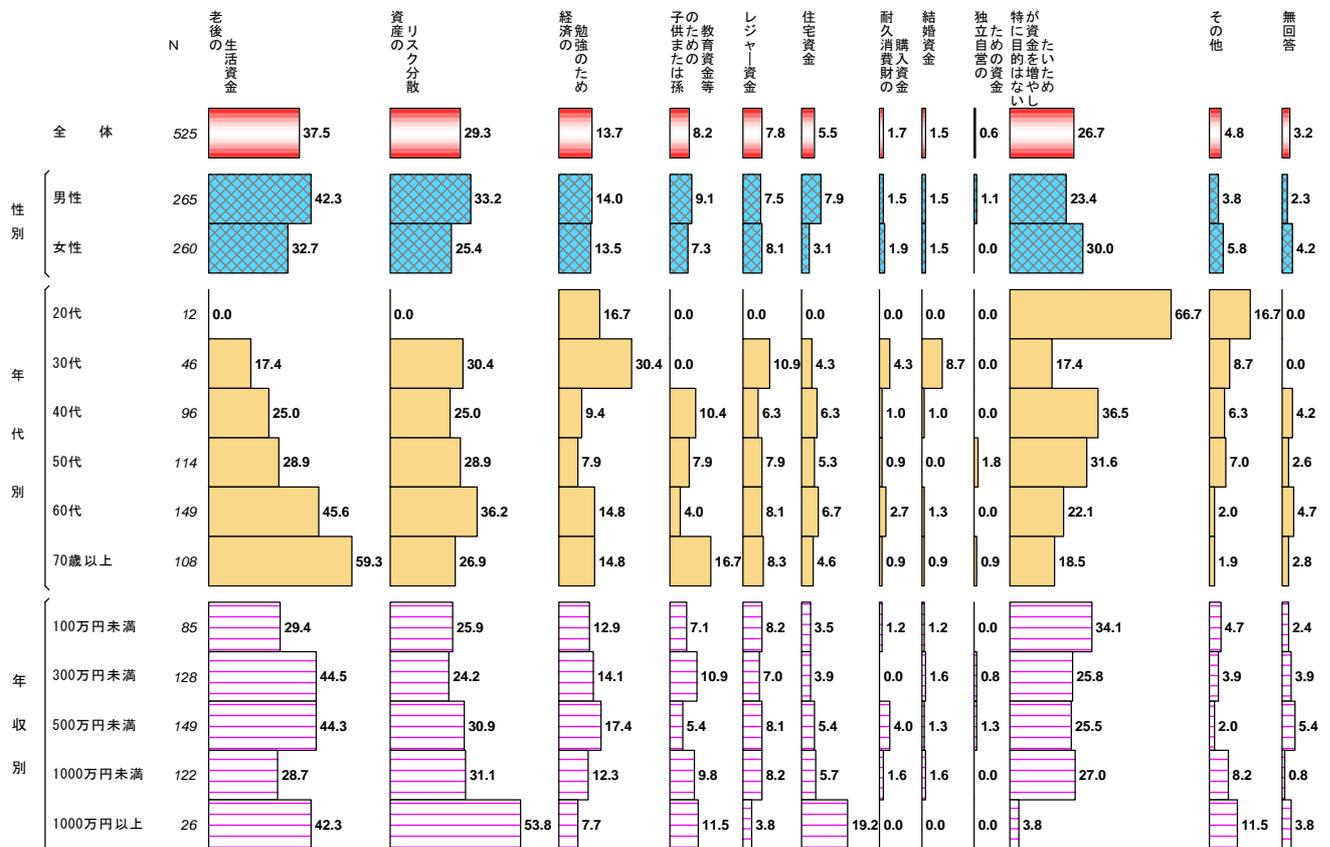
年収別でみると、300万円未満と500万円未満で「老後の生活資金」が44%台と高い。

投資信託保有状況別でみると、現在保有層では「老後の生活資金」「資産のリスク分散」が保有経験層より高く、「耐久消費財の購入資金」「特に目的はないが資金を増やしたいため」は保有経験層よりも低い。

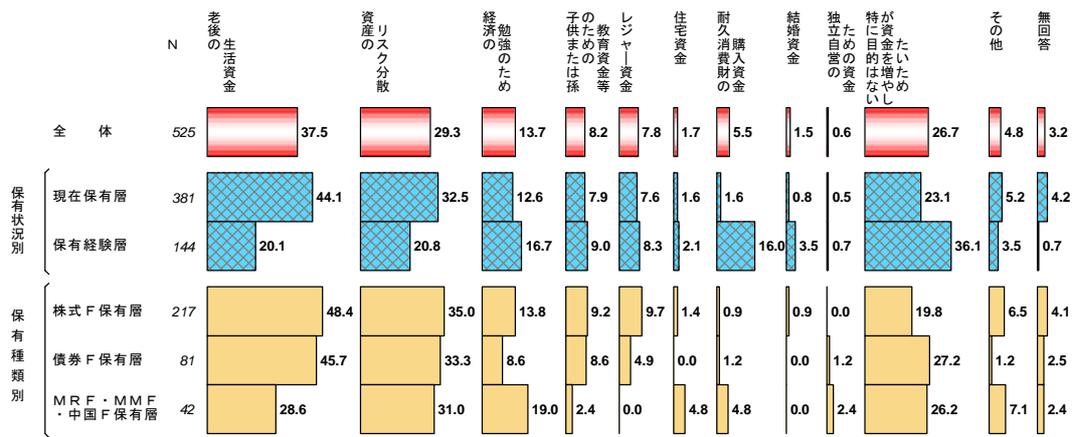
投資信託保有種類別でみると、株式ファンド保有層と債券ファンド層では、「老後の生活資金」がMR F・MMF・中期国債ファンド保有層より高い。「経済の勉強のため」はMR F・MMF・中期国債ファンド保有層で高い。「特に目的はないが資金を増やしたいため」は債券ファンド保有層、MR F・MMF・中期国債ファンド保有層で高い。

【投資信託の購入目的／基本軸1（重複回答）－現在保有層・保有経験層】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



【投資信託の購入目的／基本軸2（重複回答）－現在保有層・保有経験層】



(7) 投資信託の運用実績評価

投資信託の運用実績評価をみると、「期待した以上だった」は5.5%と低いが、「期待通りの実績だった」は31.2%となっている。一方、「期待していたよりもやや悪かった」は24.4%、「全く期待はずれだった」は12.4%で、「なんともいえない」は24.8%となっている。「期待した以上だった」と「期待通りの実績だった」を合わせたものを“期待以上”とし、「期待していたよりもやや悪かった」と「全く期待はずれだった」を合わせたものを“期待以下”としてみると、“期待以上”は36.7%、“期待以下”は36.8%と、ほぼ同率となる。

性別でみると、男性では“期待以上”が女性より高いが、女性では「なんともいえない」が30.8%と高い。

年代別でみると、50代で“期待以上”が最も高く、60代、70歳以上と年代が高くなるにつれて低下する。

年収別でみると、300万円未満で“期待以上”が最も低く、年収が上がるにつれて高くなっている。

投資信託保有状況別でみると、現在保有層では保有経験層より“期待以上”が高く、“期待以下”が低い。また、「なんともいえない」は現在保有層が保有経験層より高い。

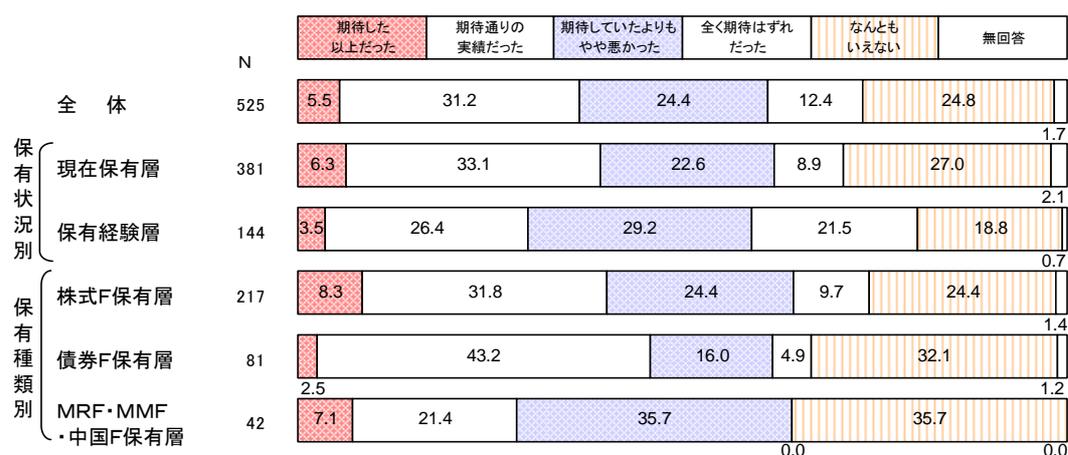
投資信託保有種類別でみると、株式ファンド保有層と債券ファンド保有層で“期待以上”が他の層よりも高い。

【投資信託の運用実績評価／基本軸1（単数回答）－現在保有層・保有経験層】

※N数（サンプル数）が少ない項目については、データをみる際に注意が必要。

		N	期待した以上だった	期待通りの実績だった	期待していたよりもやや悪かった	全く期待はずれだった	なんともいえない	無回答
性別	全体	525	5.5	31.2	24.4	12.4	24.8	1.7
	男性	265	5.3	33.6	27.2	14.0	18.9	1.1
	女性	260	5.8	28.8	21.5	10.8	30.8	2.3
年代別	20代	12	8.3	33.3	8.3	0.0	50.0	0.0
	30代	46	6.5	32.6	30.4	8.7	21.7	0.0
	40代	96	5.2	33.3	20.8	10.4	27.1	3.1
	50代	114	7.0	35.1	14.0	13.2	29.8	0.9
	60代	149	5.4	30.2	26.8	13.4	23.5	0.7
	70歳以上	108	3.7	25.9	34.3	14.8	17.6	3.7
	年収別	100万円未満	85	7.1	32.9	23.5	12.9	22.4
300万円未満		128	5.5	26.6	27.3	9.4	29.7	1.6
500万円未満		149	4.7	31.5	24.8	11.4	24.2	3.4
1000万円未満		122	5.7	32.8	23.8	15.6	21.3	0.8
1000万円以上		26	7.7	38.5	23.1	11.5	19.2	0.0

【投資信託の運用実績評価／基本軸2（単数回答）－現在保有層・保有経験層】



【参考：平成15年調査結果】

※ 平成18年調査から、調査対象・方法を変更している点に注意が必要。

(N=898)

期待した以上だった	1.6
期待通りの実績だった	13.9
期待していたよりもやや悪かった	26.6
全く期待はずれだった	28.6
なんともいえない(わからない)	28.6
無回答	0.7

(8) 償還・売却資金の流出先

投資信託の償還あるいは売却した資金の流出先は、「預貯金にまわした」(33.9%)が最も高く、次いで「株式・債券を購入した」(20.8%)、「生活資金にまわした」(20.6%)、「他の投資信託を購入した」(20.0%)などとなっている。

性別でみると、女性では「預貯金にまわした」が男性よりも高い。

年代別でみると、60代と70歳以上で「株式・債券を購入した」、40代と50代で「生活資金にまわした」が高い。

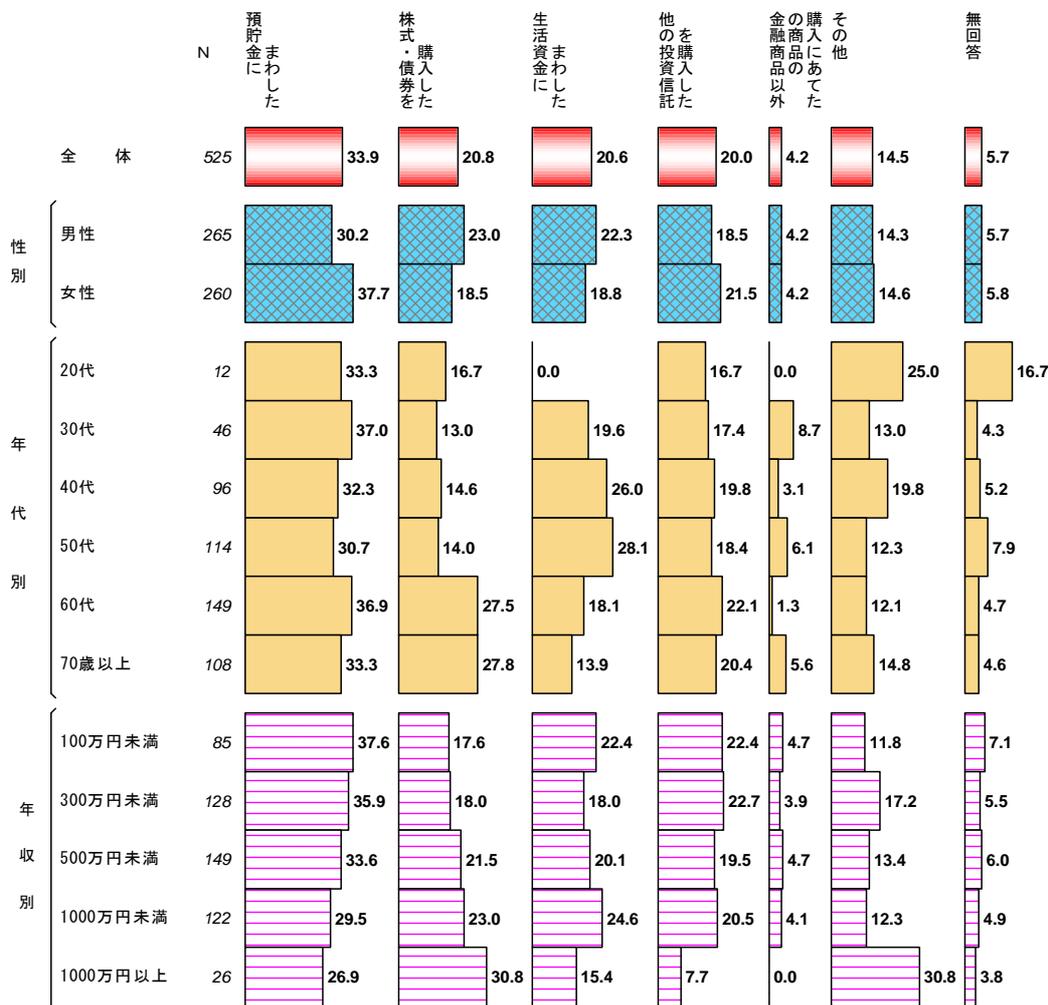
年収別では、年収が低いほど「預貯金にまわした」が高くなり、年収が高くなるにつれて「株式・債券を購入した」が高くなる傾向がみられる。

投資信託保有状況別でみると、現在保有層では「他の投資信託を購入した」が保有経験層より高く、「預貯金にまわした」「生活資金にまわした」は現在保有層の方が低くなっている。

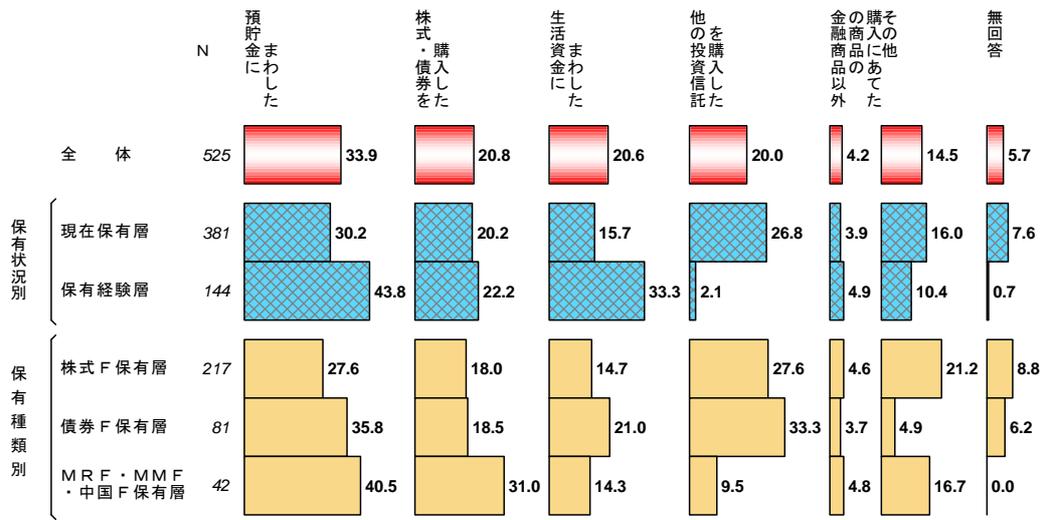
保有種類別では、「預貯金にまわした」は、高い順にMR F・MMF・中期国債ファンド保有層、債券ファンド保有層、株式ファンド保有層となっており、株式ファンド保有層、債券ファンド保有層では「他の投資信託を購入した」が高い。

【償還・売却資金の流出先／基本軸1(重複回答)－現在保有層・保有経験層】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データをみる際に注意が必要。



【償還・売却資金の流出先／基本軸2（重複回答）－現在保有層・保有経験層】



(9)運用報告書閲読状況

① 運用報告書閲読経験

運用報告書の閲読経験については、「読んだことがある」が61.0%、「読んだことはない」が36.2%となっている。

性別でみると、「読んだことがある」は男性が67.9%、女性が53.8%と男性の方が高い。

年代別でみると、他の年代に比べて50代の閲読率がやや低い。

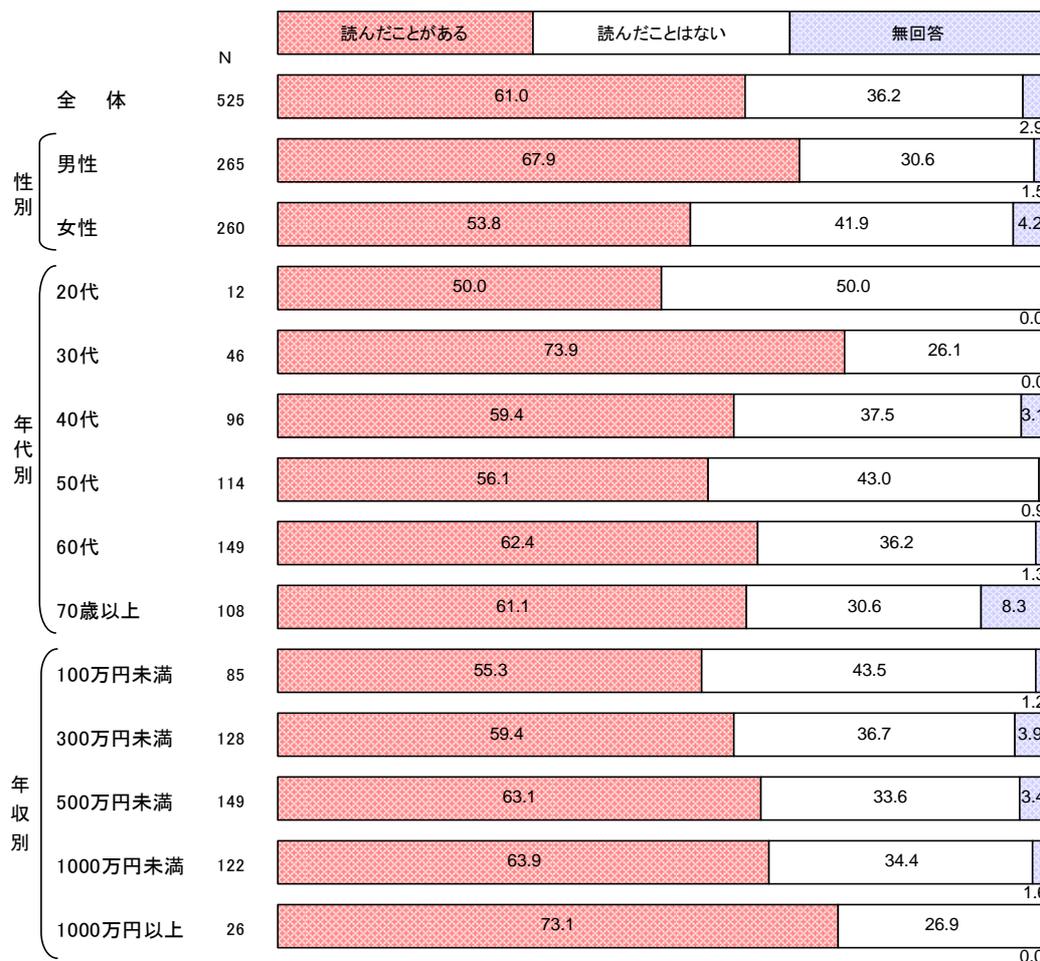
年収別では、年収が上がるにつれて閲読率が高くなっている。

投資信託保有状況別でみると、現在保有層では、「読んだことがある」が保有経験層よりも高い。

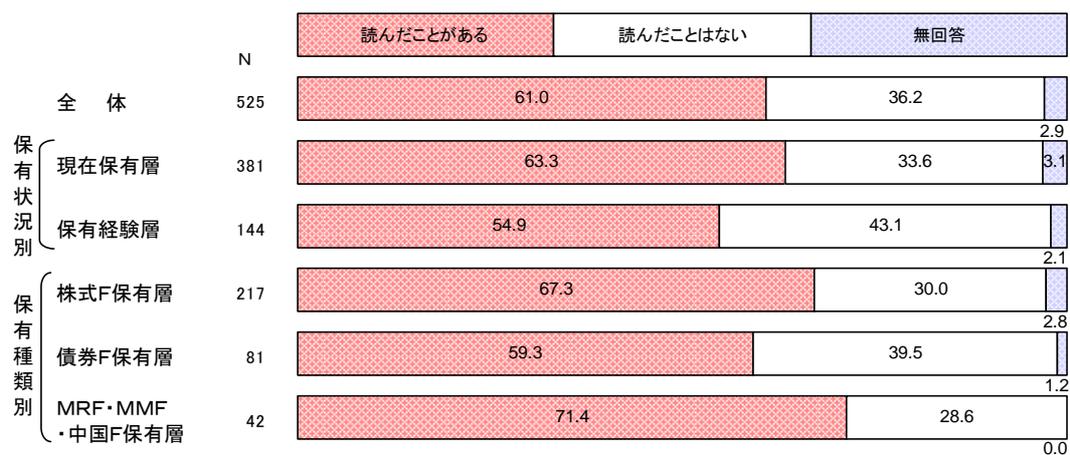
投資信託保有種類別でみると、債券ファンド保有層で「読んだことがある」が他層に比べて低い。

【運用報告書閲読経験／基本軸1(単数回答)－現在保有層・保有経験層】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データをみる際に注意が必要。



【運用報告書閲読経験／基本軸2（単数回答）－現在保有層・保有経験層】



② 運用報告書理解状況(運用報告書閲読経験者)

運用報告書閲読経験者に運用報告書の理解状況を尋ねたところ、「よく理解できた」(2.8%)と「まあまあ理解できた」(51.9%)を合わせた“理解層”は54.7%、「よくわからなかった」(42.2%)と「全くわからなかった」(2.8%)を合わせた“非理解層”は45.0%であった。

性別で見ると、男性では“理解層”が女性を大幅に上回る。

年代別で見ると、60代と70歳以上で“理解層”が他の年代に比べてかなり高い。

年収別では、100万円未満で他の層に比べて低い。

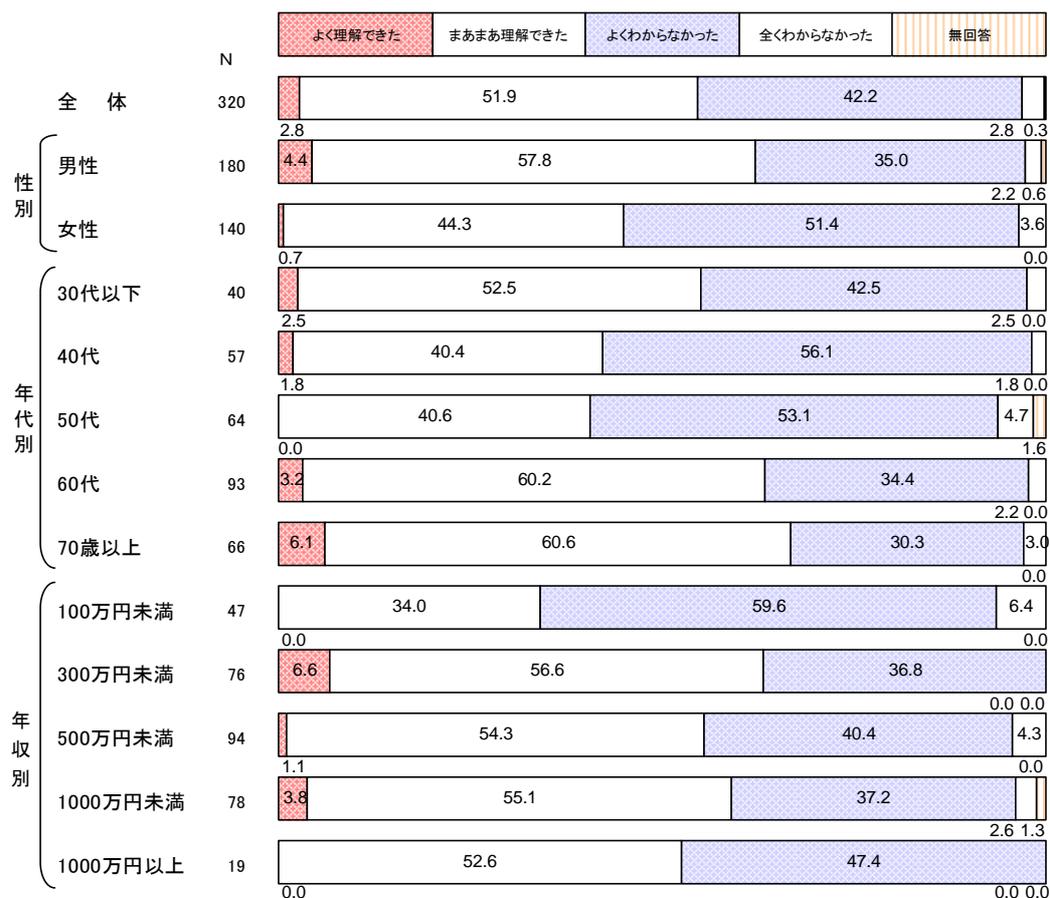
投資信託保有状況別で見ると、現在保有層では“理解層”が保有経験層を大きく下回っている。

投資信託保有種類別では、“理解層”はいずれの層でも同程度で、大きな違いはみられない。

【運用報告書理解状況／基本軸1(単数回答)

－現在保有層・保有経験層のうち運用報告書閲読経験者】

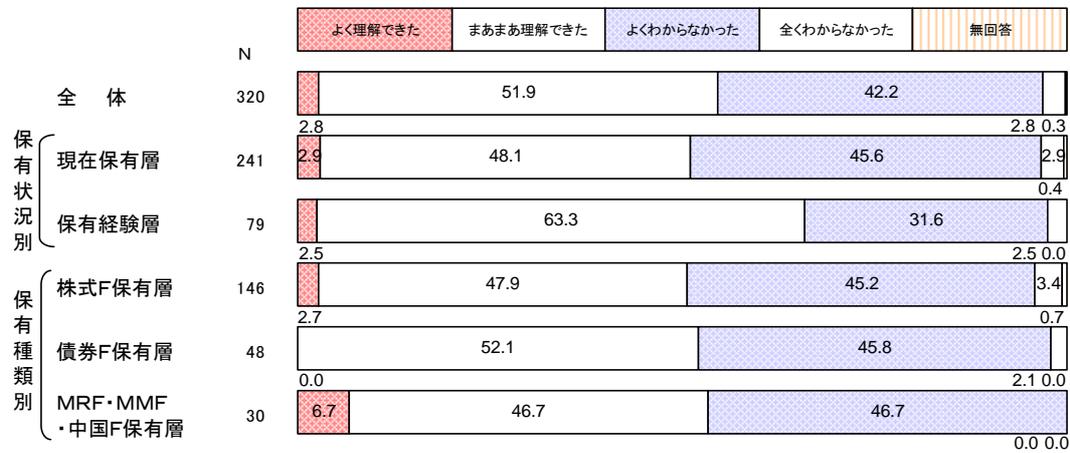
※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



【運用報告書理解状況／基本軸2（単数回答）】

－現在保有層・保有経験層のうち運用報告書読読経験者－

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



③ 運用報告書未読理由(運用報告書閲読未経験者)

運用報告書閲読未経験者に、運用報告書を読まなかった理由を尋ねたところ、「特に興味もなかったのが」が45.3%、「難しそうだったので」が43.2%であった。「発行されていることも知らなかった」は11.1%であった。

性別でみると、男性では「特に興味もなかったのが」(50.6%)、女性では「難しそうだったので」(50.5%)が高くなっている。

年代別では、顕著な差はみられない。

年収別では、300万円未満で「特に興味もなかったのが」が他層の中で最も低く、「難しそうだったので」が最も高い。

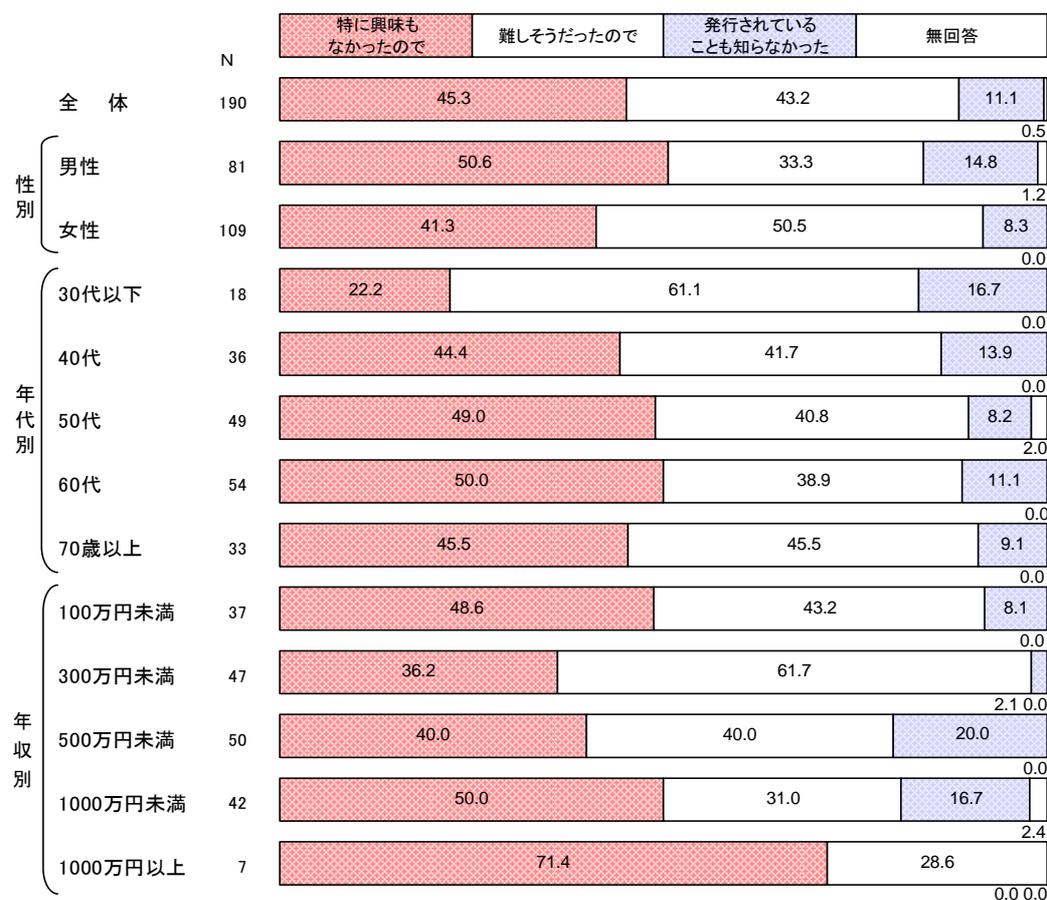
投資信託保有状況別でみると、現在保有層では「難しそうだったので」が保有経験層よりも高い。

投資信託保有種類別では、株式ファンド保有層、債券ファンド保有層ともに「難しそうだったので」が50%以上を占めている。

【運用報告書未読理由／基本軸1(単数回答)

－現在保有層・保有経験層のうち運用報告書閲読未経験者】

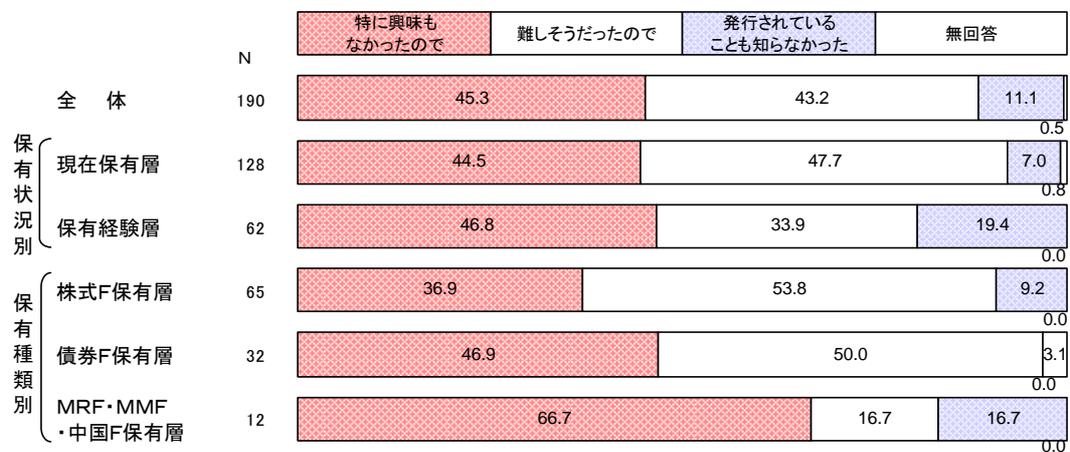
※N数(サンプル数)が少ない項目については、データをみる際に注意が必要。



【運用報告書未読理由／基本軸2（単数回答）】

－現在保有層・保有経験層のうち運用報告書読読未経験者】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データをみる際に注意が必要。



(10) 評価会社による運用評価の認知・利用状況

評価会社による運用評価の認知・利用状況については、「評価会社の評価を参考に購入した経験がある」は6.3%に留まっている。「評価会社の評価を見たことがある」は42.5%で、「評価会社があること自体知らなかった」は47.8%と半数近くとなった。

性別でみると、「評価会社の評価を見たことがある」が男性の方が45.3%と女性の39.6%に比べて高い。

年代別でみると、50代で「評価会社があること自体知らなかった」が他の年代に比べて高い。

年収別でみると、1000万円未満で「評価会社の評価を見たことがある」(50.0%)が他層に比べて高い。

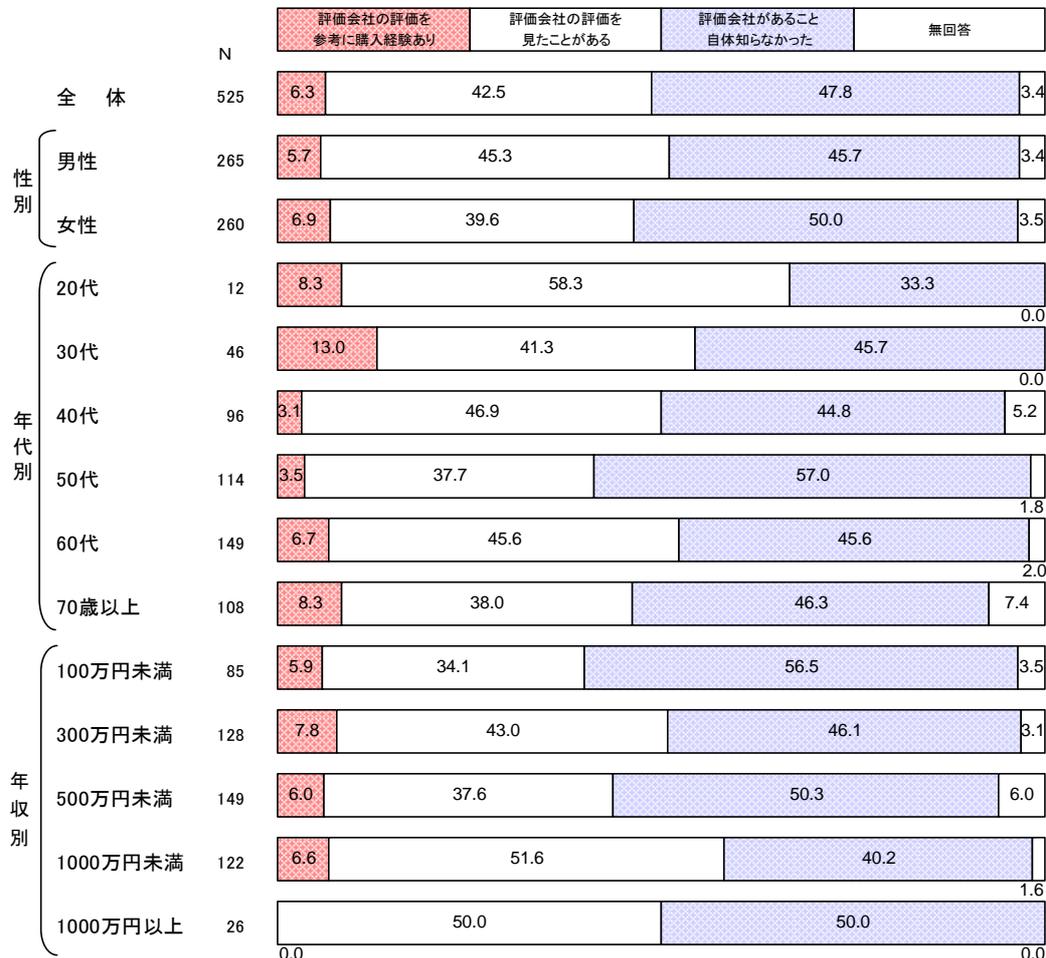
投資信託保有状況別でみると、現在保有層では保有経験層と比べて「評価会社の評価を参考に購入した経験がある」が高く、「評価会社があること自体知らなかった」は低い。

投資信託保有種類別でみると、株式ファンド保有層と債券ファンド保有層で「評価会社の評価を参考に購入した経験がある」がMR F・MMF・中期国債ファンド保有層に比べて高い。MR F・MMF・中期国債ファンド保有層では、「評価会社があること自体知らなかった」が他層に比べて高い。

【評価会社による運用評価の認知・利用状況／基本軸1(単数回答)

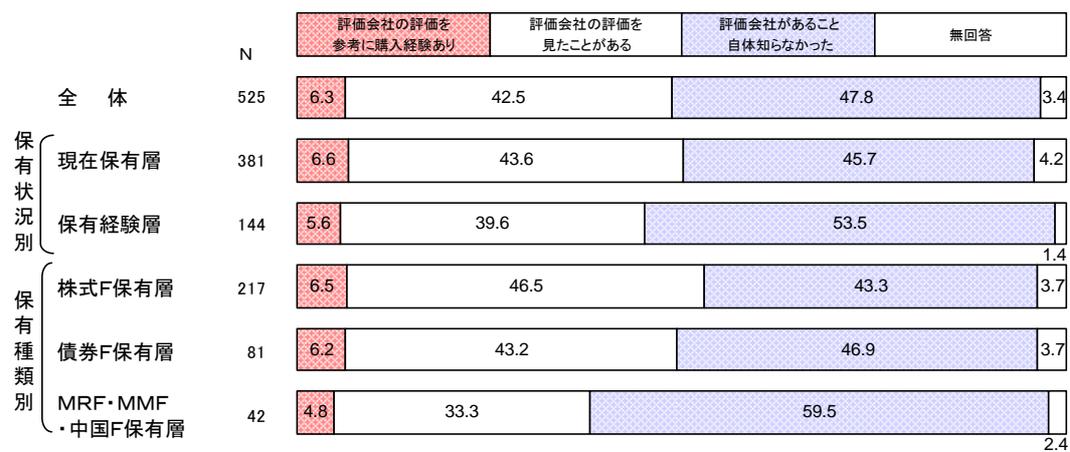
－現在保有層・保有経験層

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



【評価会社による運用評価の認知・利用状況／基本軸2（単数回答）】

－現在保有層・保有経験層】



(11) 投資信託の優れていると感じる点

他の金融商品と比較した場合に投資信託が優れていると感じる点(重複回答)としては、「専門知識がなくても投資ができる」(55.2%)、「定期的に分配金が受け取れる」(45.5%)、「比較的高い利回りが期待できる」(42.1%)が上位を占めている。

性別でみると、男性では「専門知識がなくても投資ができる」「比較的高い利回りが期待できる」「購入手続きが簡単である」「種類が豊富で目的に応じて選べる」が女性に比べて高い。

年代別でみると、50代と70歳以上で「専門知識がなくても投資ができる」が高く、「定期的に分配金が受け取れる」は50代以上を中心に高い。また、「少額でも株式投資の面白味がある」は年代が低いほど高くなる傾向がみられる。

年収別でみると、100万円未満では「専門知識がなくても投資ができる」、300万円未満と500万円未満では「定期的に分配金が受け取れる」が高い。「種類が豊富で目的に応じて選べる」は1000万円未満の層で高い。

投資信託保有状況別でみると、現在保有層では「定期的に分配金が受け取れる」「海外投資が手軽にできる」、保有経験層では「少額でも株式投資の面白味がある」「購入手続きが簡単である」がそれぞれ他層に比べて高い。

保有種類別でみると、債券ファンド保有層では「定期的に分配金が受け取れる」「比較的高い利回りが期待できる」が他層に比べて高い。

投資信託が優れていると感じる点のうち、特に魅力を感じる点(単数回答)としては、「比較的高い利回りが期待できる」(21.0%)、「専門知識がなくても投資ができる」(19.0%)、「定期的に分配金が受け取れる」(16.8%)などが挙げられている。

性別でみると、「比較的高い利回りが期待できる」は男性の方が女性よりもやや高い。

年代別では、70歳以上で「比較的高い利回りが期待できる」が他の年代に比べて低く、「専門知識がなくても投資ができる」「比較的高い利回りが期待できる」は高い。

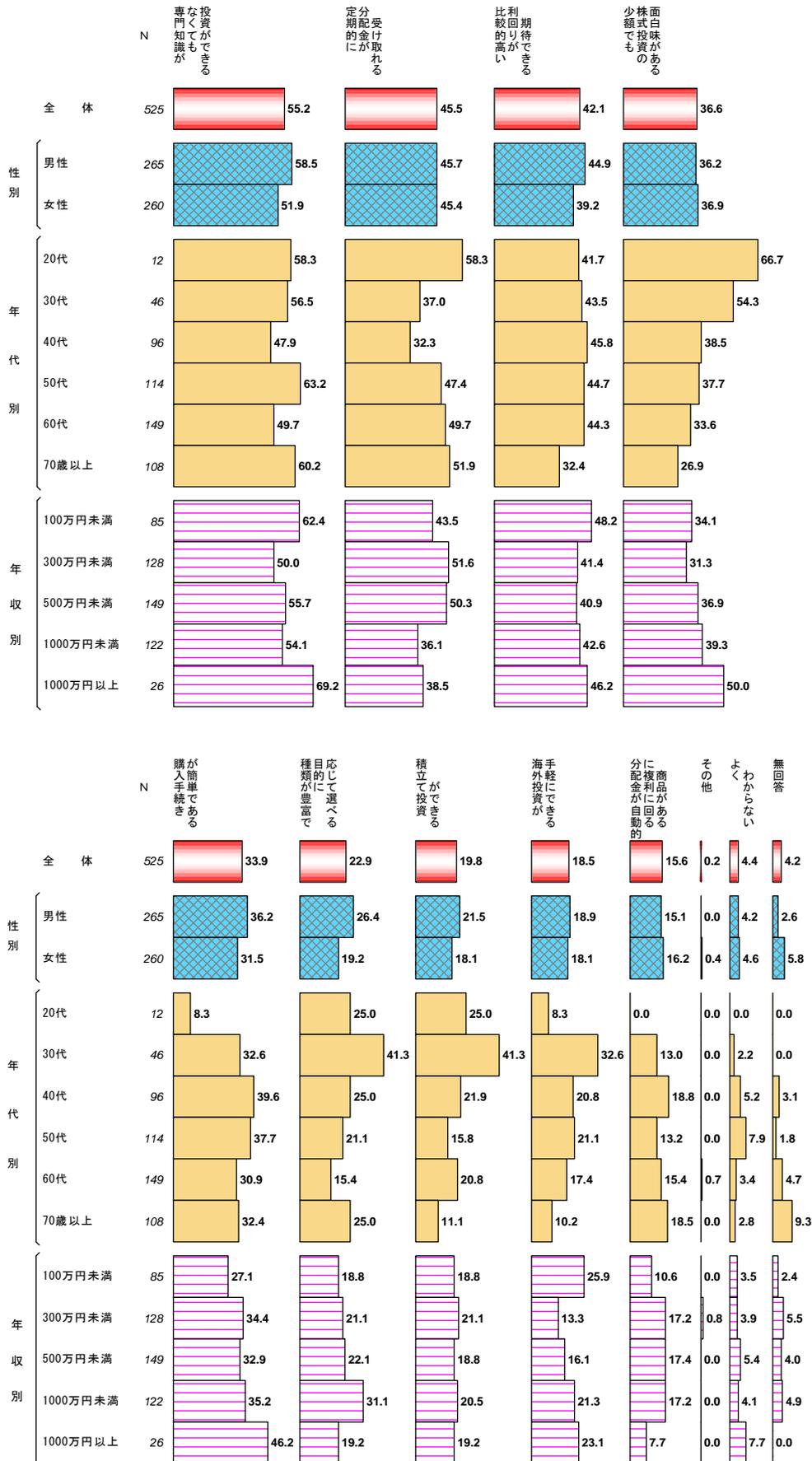
年収別では、1000万円未満で「定期的に分配金が受け取れる」が他層に比べて低い。

保有状況別では、現在保有層で「比較的高い利回りが期待できる」「定期的に分配金が受け取れる」が保有経験層に比べて高い。

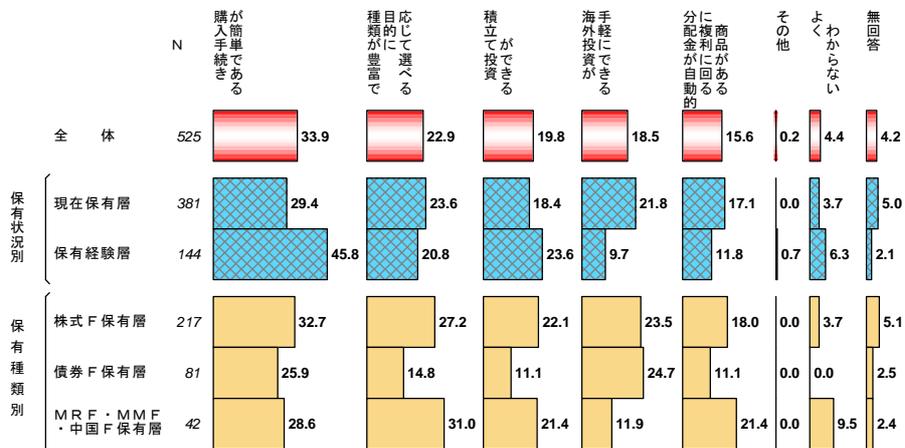
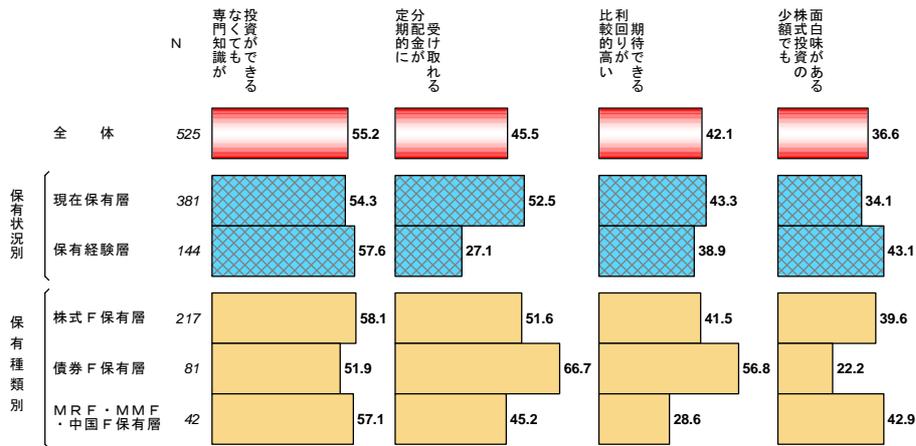
保有種類別では、債券ファンド保有層では「比較的高い利回りが期待できる」が他層に比べて高いのが目立つ。

【投資信託の優れていると感じる点／基本軸1（重複回答）－現在保有層・保有経験層】

※N数（サンプル数）が少ない項目については、データをみる際に注意が必要。



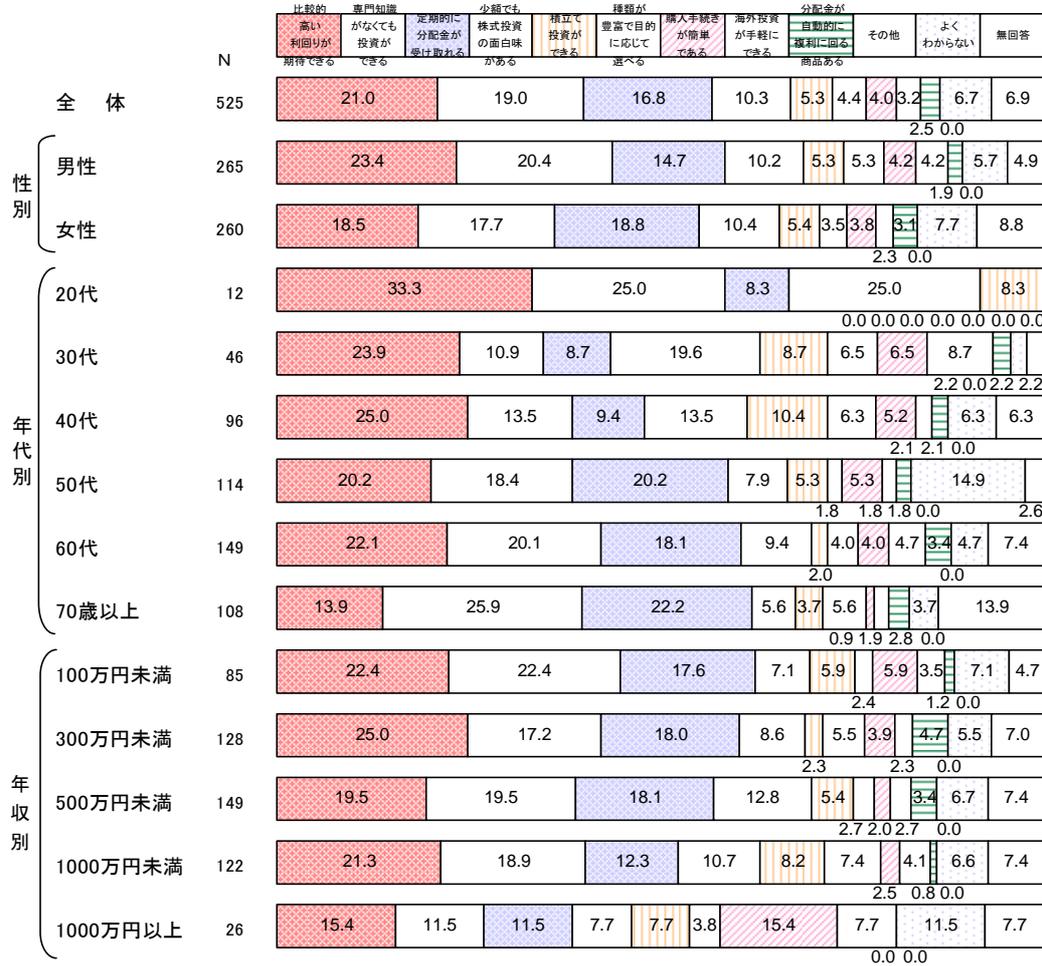
【投資信託の優れていると感じる点／基本軸2（重複回答）－現在保有層・保有経験層】



【投資信託の特に優れていると感じる点／基本軸1 (単数回答)】

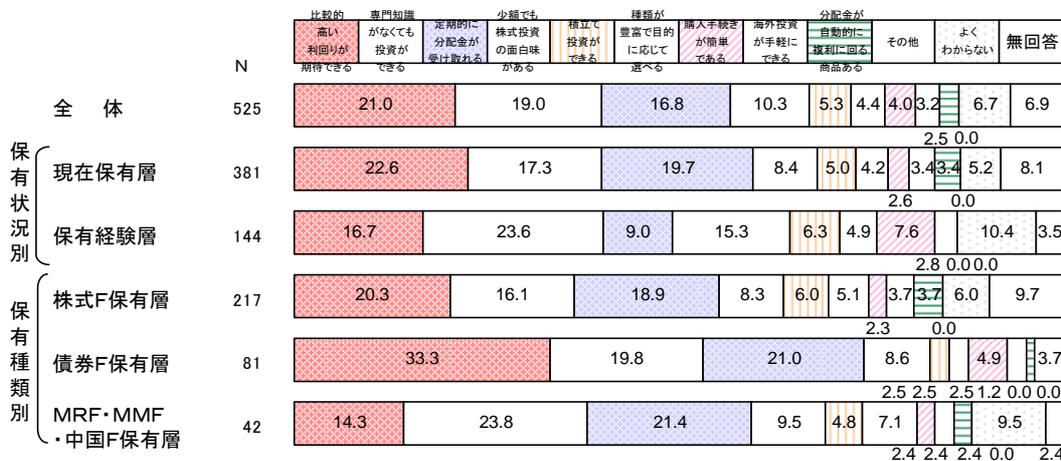
— 現在保有層・保有経験層 —

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データをみる際に注意が必要。



【投資信託の特に優れていると感じる点／基本軸2 (単数回答)】

— 現在保有層・保有経験層 —



(12) 投資信託の不満を感じる点

投資信託の不満を感じる点(重複回答)としては、「元本保証がない」が 56.2%で高い。次いで「手数料が高い」(40.6%)となっている。

性別でみると、男性では「手数料が高い」「運用実績がわかりにくい」「株式に比べて面白さに欠ける」「利回りがもの足りない」が女性に比べて高く、女性では「元本保証がない」「公社債に比べて安心できない」が高い。

年代別でみると、30代や50代、60代で「手数料が高い」、60代、70代が「株式に比べて面白さに欠ける」は他の年代に比べて高い。「種類が多く選択に迷う」は年代が上がるほど低下する。

年収別でみると、300万円未満で「元本保証がない」が他層に比べてやや高い。「種類が多く選択に迷う」は1000万円未満までは年収が上がるにつれて高くなる傾向がみられる。

投資信託保有状況別でみると、現在保有層では「手数料が高い」が保有経験層に比べて高い。保有経験層では、「運用実績がわかりにくい」「公社債に比べて安心できない」「株式に比べて面白さに欠ける」など多くの項目で現在保有層を上回っている。

投資信託保有種類別では、株式ファンド保有層で「元本保証がない」「手数料が高い」が高い。

投資信託の不満を感じる点のうち、特に不満を感じる点(単数回答)としては、「元本保証がない」が 27.6%と高く、次いで「手数料が高い」(19.2%)となっている。

性別でみると、「元本保証がない」は男性よりも女性の方が高く、「手数料が高い」は男性の方が高い。

年代別でみると、50代以下で「元本保証がない」、30代と60代で「手数料が高い」が高い。

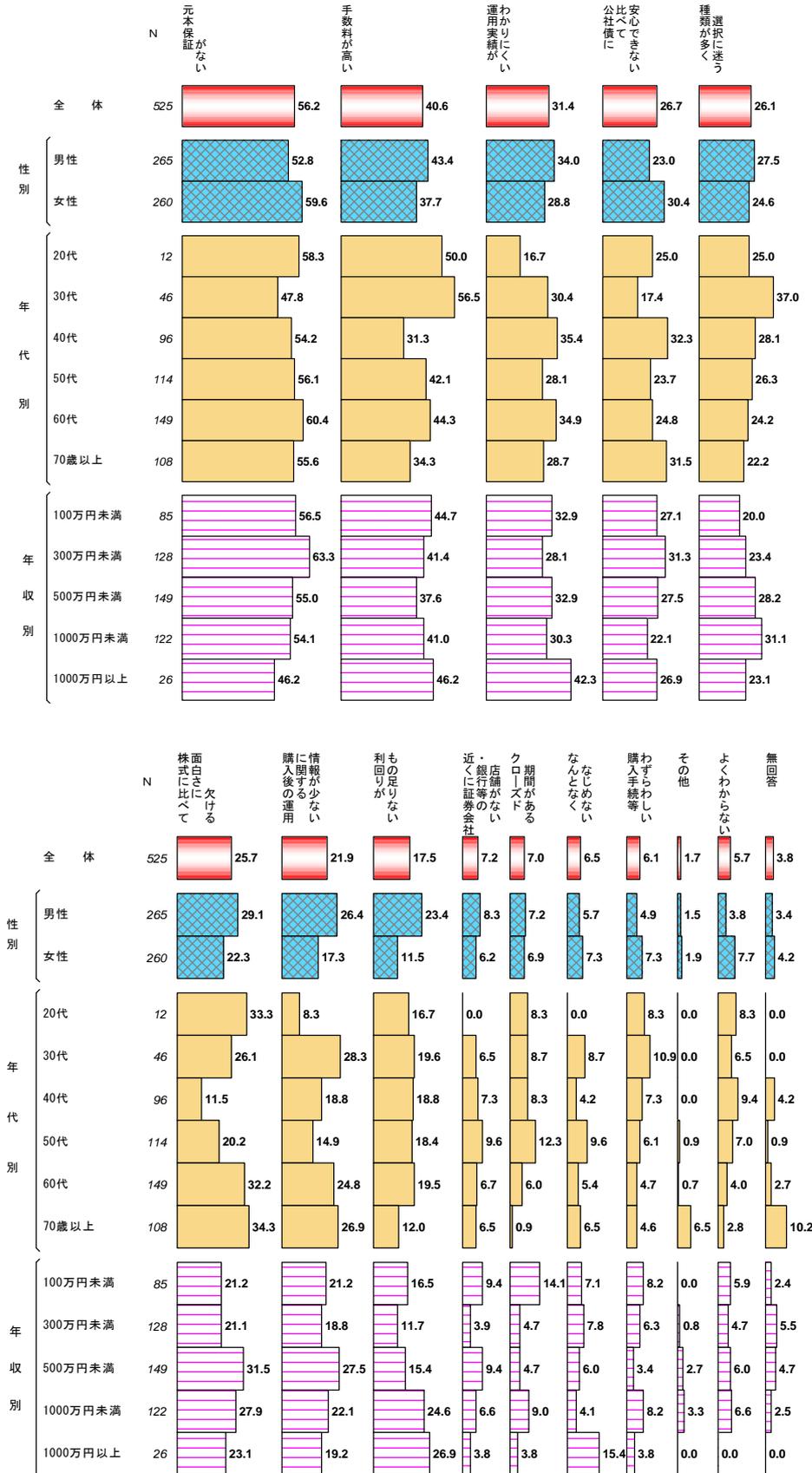
年収別では、100万円未満と300万円未満で「元本保証がない」が高くなっている。

投資信託保有状況別では、現在保有層では「手数料が高い」が保有経験層に比べて高い。

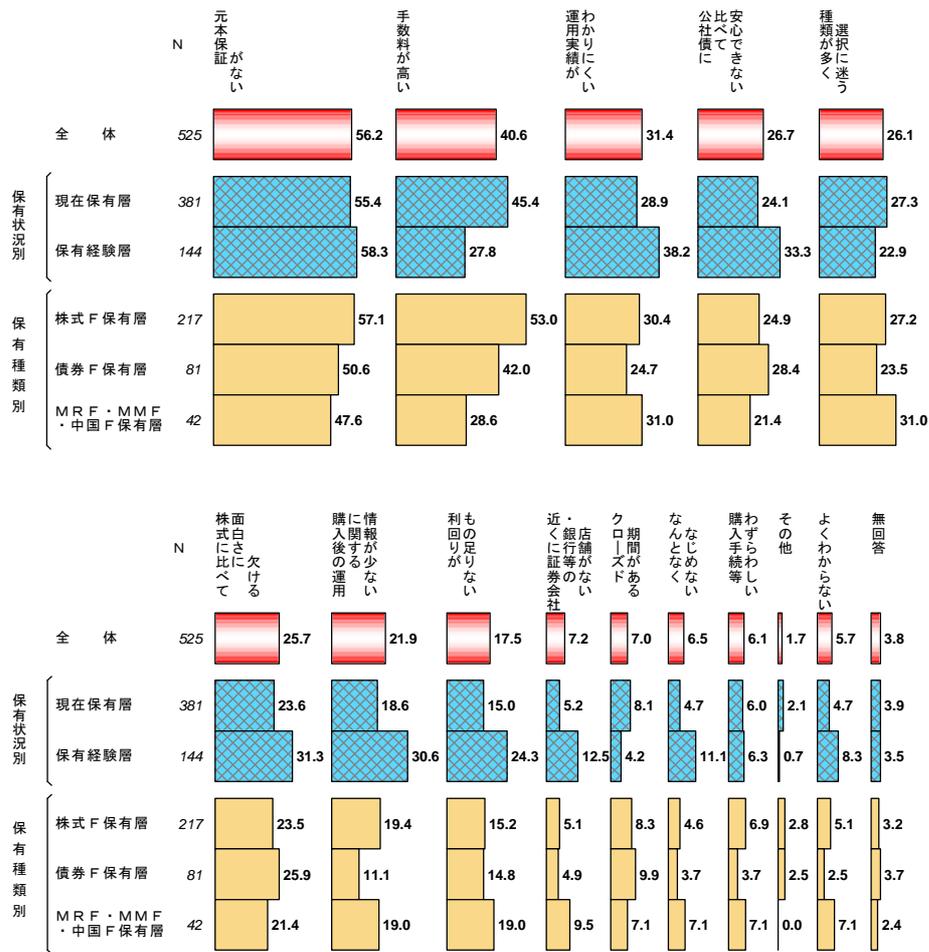
投資信託保有種類別でみると、「手数料が高い」は高い順に株式ファンド保有層、債券ファンド保有層、MRF・MMF・中期国債ファンド保有層となっている。

【投資信託の不満を感じる点／基本軸1（重複回答）－現在保有層・保有経験層】

※N数（サンプル数）が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

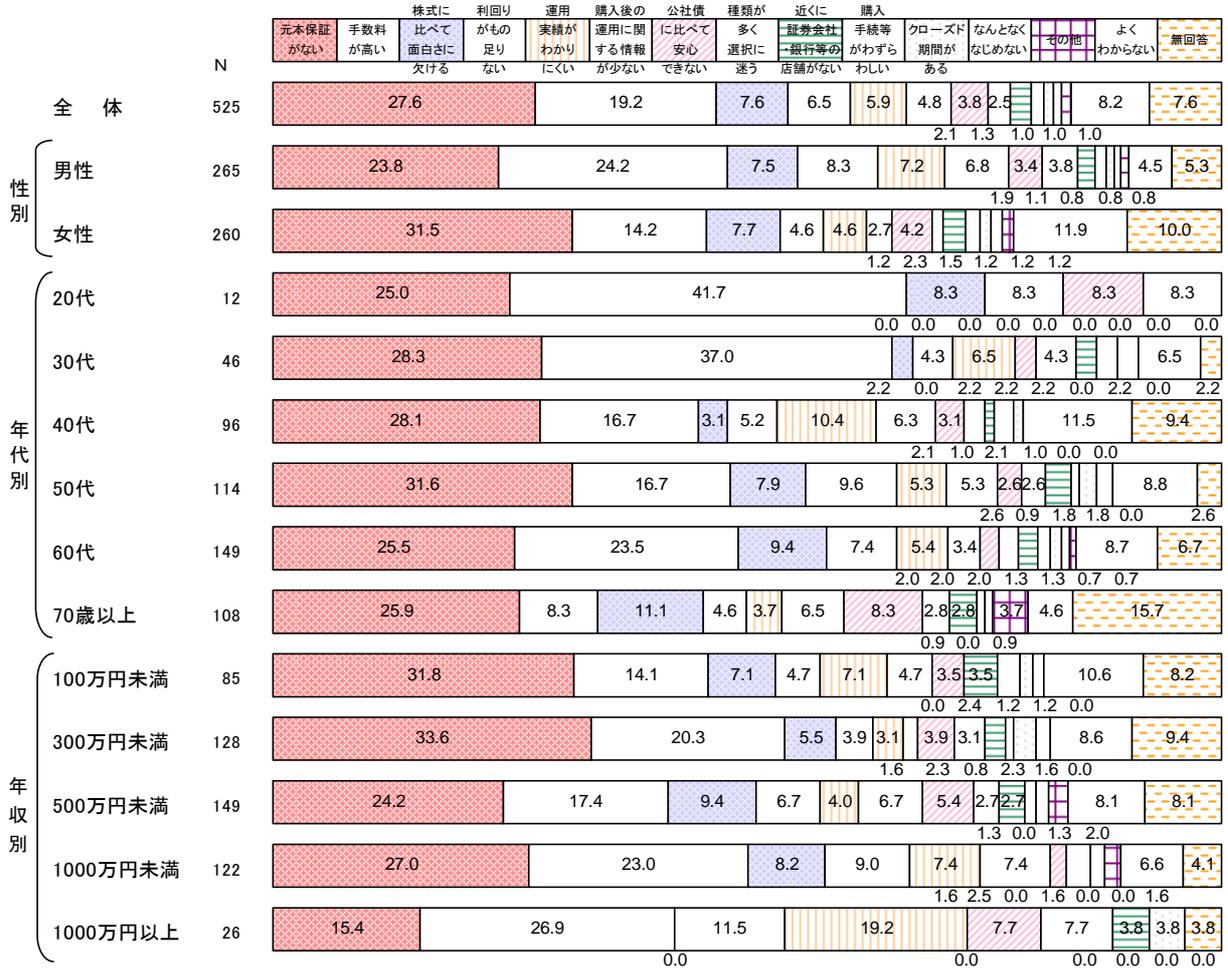


【投資信託の不満を感じる点／基本軸2（重複回答）－現在保有層・保有経験層】

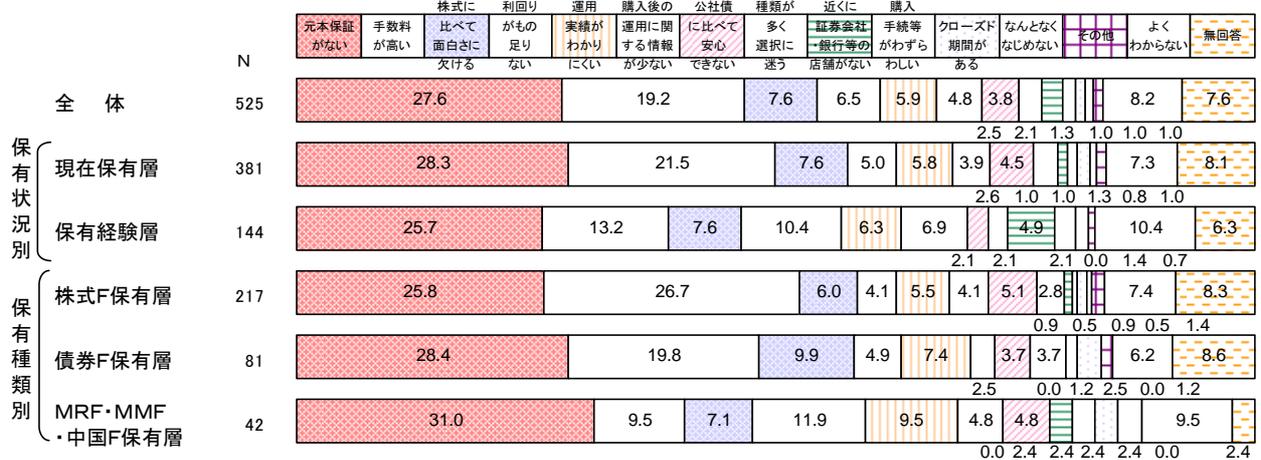


【投資信託の特に不満を感じる点／基本軸1（単数回答）－現在保有層・保有経験層】

※N数（サンプル数）が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



【投資信託の特に不満を感じる点／基本軸2（単数回答）－現在保有層・保有経験層】



6. 投資信託保有未経験層の状況

(1) 投資信託の購入意向経験

これまでに投資信託を保有したことのない人に、投資信託を購入したいと思ったことがあるかを尋ねたところ、「ある」は27.2%であった。

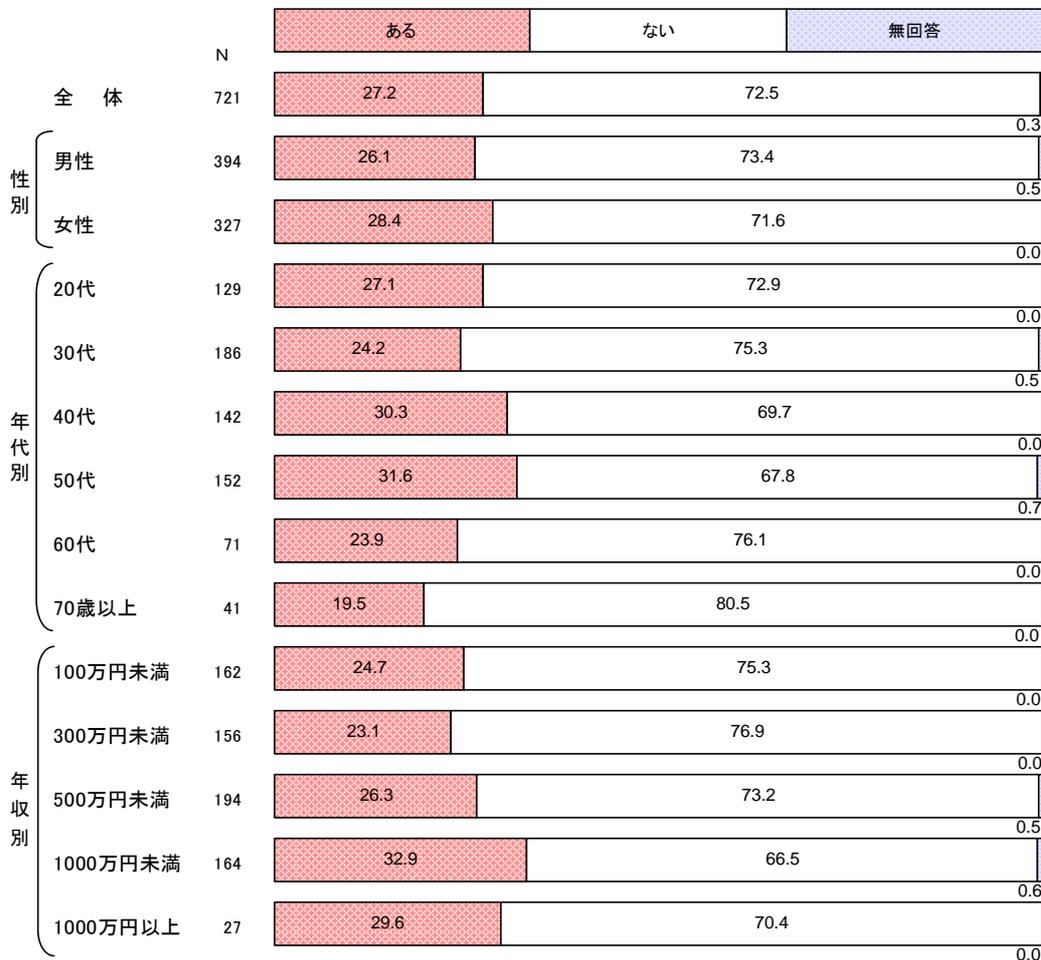
性別では、大きな違いはみられない。

年代別では、40代と50代で他の年代に比べて「ある」が高い。

年収別で見ると、1000万円未満で他層に比べて「ある」が高くなっている。

【投資信託の購入意向(単数回答) - 保有未経験層】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データをみる際に注意が必要。



(2) 投資信託の非購入理由

投資信託保有未経験層で、投資信託を購入しなかった理由については「投資信託がよくわからないので不安」が67.1%と最も高く、次いで「元本保証がない」(33.1%)、「少額では購入しづらい」(25.7%)となっている。

性別でみると、「投資信託がよくわからないので不安」は男性よりも女性の方が高く、「少額では購入しづらい」は男性の方が高くなっている。

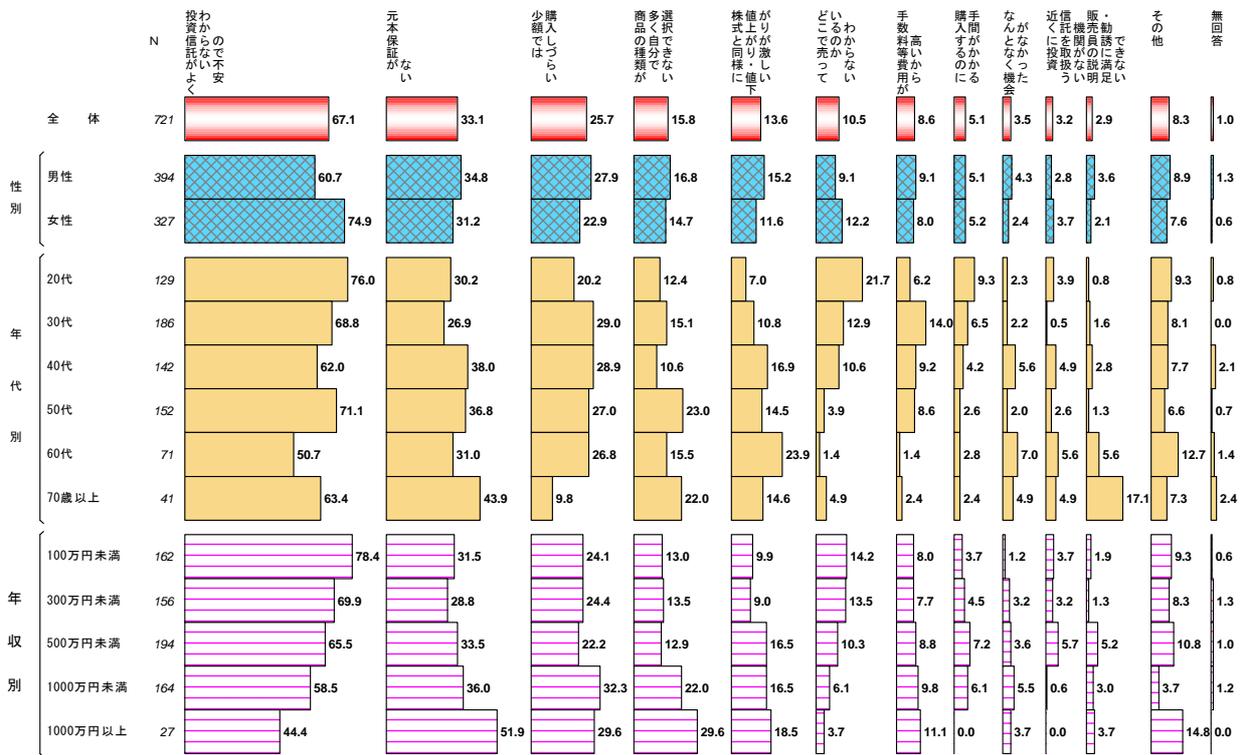
年代別でみると、20代と30代、50代で「投資信託がよくわからないので不安」が高い。また、30代～60代にかけて「少額では購入しづらい」が高く、20代～40代の比較的年代の若い層では、「どこで売っているのかわからない」が他の年代に比べて高い。

年収別でみると、年収が下がるにつれて「投資信託がよくわからないので不安」「どこで売っているのかわからない」が高くなっている。1000万円未満では「少額では購入しづらい」が高い。

保有状況別でみると、購入意向経験があった層では購入意向がなかった層に比べて、「元本保証がない」「少額では購入しづらい」「商品の種類が多く自分で選択できない」が高い。購入意向経験がなかった層では、「投資信託がよくわからないので不安」「どこで売っているのかわからない」が高くなっている。

【投資信託の非購入理由／基本軸1（重複回答）－保有未経験層】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



【投資信託の非購入理由／基本軸2（重複回答）－保有未経験層】

